

東京歯科大学同窓会会報 第386号

目 次

グラビア さいかち坂校舎竣工 ふるさと自慢	
巻 頭 言	1
お知らせ	2～3
会 務	4～18
ゴルフ大会	19～20
理事会のうごき	21
渉 外	22
学 術	23
保 険	24～28
母校だより	29～32
東京歯科大学 創立120周年記念事業	33～36
支部のうごき	37～46
クラス会だより	47～49
OB会・グループ・サークルだより	50～51
庶務日誌	52～53
逝去会員	54～55
へんしゅうこうき	56

## さいかち坂校舎竣工



「さいかち坂校舎」正面玄関



矢崎会長による玉串奉奠

さいかち坂校舎が竣工し、運用を開始しました

去る3月17日（土）に「さいかち坂校舎竣工式」が挙行されました。式典には、大学関係者、工事関係者とともに同窓会役員も出席し、矢崎会長が玉串奉奠をされました。

移転計画の第一弾として完成したこの新校舎は、地上8階地下1階のコンパクトながら機能的に勉学ができる設備が整えられています。

水道橋の病院から御茶ノ水駅方向へ、徒歩約5分の場所にあつて交通の便も良く、4月より登校している

1年生は新しいキャンパスライフを満喫しているようです。同窓会から、地下1階と3階のラウンジに4台の電子レンジを寄贈しました。学生に好評とのこと。今後も、移転関係の情報は随時掲載を予定しています。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

- ① 竣工式受付
- ② 4F. 第1講義室
- ③ 2F. 第3講義室
- ④ 5F. 第2実習室
- ⑤ 8F. 教員室
- ⑥ 7F. 図書室
- ⑦ B1F. ラウンジの洗口コーナー
- ⑧ 3F. ラウンジ
- ⑨ B1F. ラウンジ
- ⑩ 同窓会寄贈の電子レンジ

# ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

## 私の沖縄

### 「沖縄の今昔」

## 沖縄県

1879年、琉球王国から沖縄県となりました。それから133年、いろいろな出来事と共に、時は流れてきたようです。

沖縄県は今年、本土復帰40周年となりました。そこで、この地で生まれすごしてきた私の沖縄を書いてみたいと思います。1972年（小学校2年生の頃）、沖縄県本土復帰がありました。私は日本人なのに、沖縄県は日本ではなかった、という事実に驚きました。どうやら戦争で負けた事が関係しているらしいと知り、子供なりに複雑でした。正式には、日本国籍アメリカ在住という立場でしょうか。その為、本土へ行く際には、パスポートが必要だったようです。復帰後、お金がドルから円（1ドル=360円）に変わるという経験をしました。子供の頃なので、私にとってはセント硬貨から円硬貨への変化なのですが。価値基準がわからず、お菓子を買うのにもひと苦労で、お金が変わるという事は、おも



沖縄そば・ジーマミー豆腐・モズク・モーイドウフ



県立博物館に展示されている沖縄の家

しろいけれど、なんと不便な事なのだろうと思ったものです。1号線と親しまれていた道路も、国道58号線と改められました。それには「道路も年を取るんだねえ」という、沖縄おばあさんの笑い話があります。1975年には、沖縄海洋博覧会が開催され、大きなイベントに胸を躍らせました。1978年7月30日、日本本土と同様、車が左側通行となりました。ナナサンマルと言われています。当時は逆走による事故も多く、歩行者も気をつけなくてはならない状態でした。沖縄で生まれ育ったからこそその思い出です。どんな時も、青い空と青い海、鮮やかな濃い色の中ですごしてきた気がします。

最近では、沖縄といえば基地問題があげられますが、いろいろな表情を持っています。青い海や自然に身をゆだね、ゆったり<sup>ぐすく</sup>のんびり風を感じるもよし、城や戦跡で歴史の流れに思いをはせるもよし、沖縄料理や南国果実を満喫するもよし、文化芸能を楽しむもよし、自分なりの沖縄をみつけていただけたらと思うのです。

沖縄を訪れるすべての人々はもちろん、沖縄の事を思う人々、そして沖縄に住む私達にとっても、心癒される地であり続けて欲しいと願う今日この頃です。

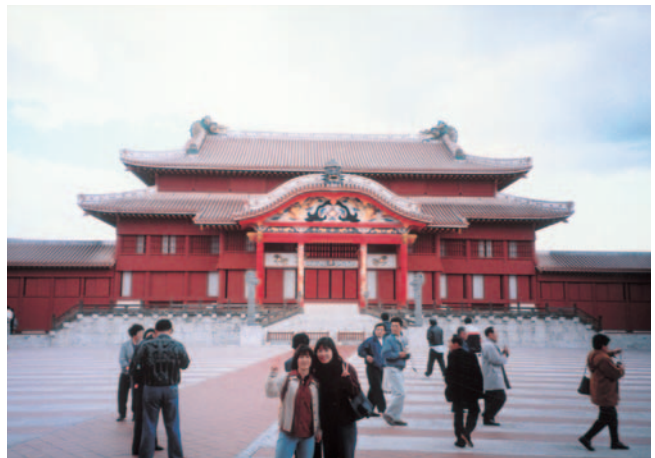
（昭和63年卒 阿嘉由紀美）



本島北部（本部）の高台からの景色



沖縄の海の色…



首里城



壺屋焼職人の方々が作った大きなシーサー



美ら海水族館

## 副会長に就任して



副会長

浮 地 文 夫

東京歯科大学同窓会の副会長に任命されました，昭和44年卒業の浮地文夫でございます。浅学非才ではありますが，矢崎会長の足手まといにならないように一所懸命に務め，伝統ある東京歯科大学同窓会のさらなる発展に寄与したいと思っております。

私の担当は事業推進部の保険でございますが，保険担当常任理事の蛸谷先生や保険常任委員会の各委員と共に，迅速かつ的確な情報を会員の先生方にお届けするように努力致します。4月の診療報酬改定につきましても，新規導入項目の算定方法や注意すべき事項等を，各委員のご努力によりこの会報に掲載出来ました。改定率1.7%とごく僅かな上昇ですが，算定要件等を熟知して診療報酬が1.7%以上上昇するようにして頂きたいと思っております。歯科は診療報酬改定時には点数がアップしますが，時間の経過とともに逡減してしまう傾向が有ります。これを防ぐには，これから出されてくる疑義解釈等を良く理解する必要があると思っております。これから順次疑義解釈の解説等も解り易く先生方にご提供して行きたい

と思っております。

さて，平成元年以降の卒業生の支部入会率は年々低下しており，ここ数年は50%を大きく割り込んでいるのが現状です。支部未入会の同窓生の会費納入率は20%以下です。80%以上の方が会費を納入しておりません。この状態が続けば早晚，同窓会の運営が不可能になります。私は東京地域支部連合会の会長も，現同窓会長の矢崎先生の後任として勤めさせて頂いておりますが，地域支部連合会も各支部も，新入会員の減少，高齢会員の増加，会員数の減少，それらに起因する会費収入の減少が毎年止まりません。未入会者対策は同窓会本部，地域支部連合会，各支部を含めた同窓会全体の喫緊の問題であります。そこで，本執行部は「より強い会員との連携と母校への支援」をメインテーマとして，「会員の支部入会の促進のための具体的手段の検討」を主要テーマの一つにしている訳です。会員・若手ネットワーク専任担当理事の高野常任理事を中心として，卒業時や研修医終了時のオリエンテーション等で同窓会，歯科医師会の役割・必要性を説明し，歯科医師会への入会，同窓会への積極的参加を呼び掛けています。また，学生時代から同窓会に関心を持たせ，何らかの方法で同窓会の事業に参画させることが出来ないかということも検討しています。地区からの呼びかけも重要だとも思います。近隣の支部未入会の先生やご子弟，勤務医等に同窓会参加を勧誘して頂きたいと思っております。

第105回歯科医師国家試験の合格率は97.4%で，国公立を含めた28の全歯科大学・歯学部中第1位の成績でした。同窓として誇って良い成績です。さすが歯科大学の雄である東京歯科大学だと思います。その母校の水道橋移転も順調に進み，3月17日に「さいかち坂校舎」の竣工式が行われ，4月から新入生の授業が行われております。また血脇記念ホールが建設される新校舎の建設も順調のようですが，ホール建設の募金がいまだ予定額の3分の1程度です。本執行部は「母校への支援」をメインテーマに掲げておりますが，大学の発展・充実なくして同窓会の発展もありません。宜しく，ご協力お願い致します。

# お知らせ



理 事

阿部 晴弘  
昭和46年卒

## 新役員紹介

信越地域選出の高垣順吉理事が平成24年3月26日急逝のため、後任として選出される。

任期は、平成24年4月18日から平成25年12月31日まで。

## 同窓会事業・行事

- 第40回全国ゴルフ大会  
と き 平成24年9月27日（木）  
ところ 大利根カントリークラブ（茨城県）
  
- 平成24年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会  
と き 平成24年11月3日（土）  
ところ 如水会館（千代田区一ツ橋2-1-1）
  
- TDC 卒後研修セミナー2012  
卒研セミナー  
No.3 イブニングセミナー2『最新 重度歯周炎患者へのアプローチ』  
～プロービングだけでは分らない歯周炎病態の把握～  
7月21日（土）  
No.4 臨床実習セミナー1『細菌・抗体検査の実際と歯周外科実習』  
～重度歯周炎患者へのアプローチ 実践偏～  
7月22日（日）  
No.5 イブニングセミナー3『開業医が取り組む摂食嚥下リハビリテーション（入門編）』  
～診療室からはじめる口腔機能向上へのアプローチ～  
10月27日（土）  
No.6 臨床実習セミナー2『たったこれだけ！MTM！』  
～タイポドントでマスターする基本の『き』～  
10月28日（日）
  
- TDC インプラントセミナー・マスターコース  
開催日程 ・7月14日（土）・15日（日）  
・9月8日（土）・9日（日）  
・10月6日（土）・7日（日）

問い合わせ先：東京歯科大学同窓会  
Tel. 03-5275-1761

## 地域支部連合・支部関係

### ● 地域支部連合会会長の交代

平成24年4月1日付

信越地域支部連合会 阿部 晴弘 氏 (昭46卒)  
前連合会長 高垣 順吉 氏 (昭42卒)

平成24年5月1日付

東北地域支部連合会 黒澤 祐一 氏 (昭51卒)  
前連合会長 小野 喬 氏 (昭45卒)

### ● 支部長交代

平成24年1月1日付

大阪府支部 田丸 秀夫 氏 (昭50卒)  
前支部長 西尾 敏生 氏 (昭50卒)

平成24年4月14日付

札幌支部 中野 一博 氏 (昭49卒)  
前支部長 麻生 博 氏 (昭48卒)

平成24年2月17日付

荒川支部 宮下 達也 氏 (昭35卒)  
前支部長 磯部 銅一 氏 (昭40卒)

平成24年5月1日付

宮城県支部 黒澤 祐一 氏 (昭51卒)  
前支部長 小野 喬 氏 (昭45卒)

平成24年3月31日付

丸の内支部 高橋 治好 氏 (昭63卒)  
前支部長 大久保信男 氏 (昭46卒)

平成24年6月1日付

世田谷支部 飯田 泰一 氏 (昭52卒)  
前支部長 森戸 秀樹 氏 (昭48卒)

平成24年4月1日付

渋谷支部 青木 栄夫 氏 (昭41卒)  
前支部長 石川 颯 氏 (昭45卒)

平成24年6月30日付

新潟県支部 阿部 晴弘 氏 (昭46卒)  
前支部長 高垣 順吉 氏 (昭42卒)

## 母校関係行事・案内

### ● 平成24年度東京歯科大学学会

第294回総会 平成24年10月20日・21日 (土・日)

演題締切 8月28日 (火)



本会理事高垣順吉先生におかれましては、会務の執行に尽力されておられましたが、平成24年3月26日に逝去されました。

享年71才

ここに謹んで哀悼の意を表し、衷心よりご冥福をお祈りいたします。

## 訂正とお詫び

会報「385号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P61 逝去会員 下から2人目

誤：遠藤隆平 先生

正：清藤隆平 先生



# 会 務

## 東京歯科大学同窓会各種委員会委員

(平成24年1月～平成25年12月)

### 会務検討特別委員会委員

◎中川 杉生(S44卒) ○大井 誠一(S53卒) 佐藤 亨(S54卒) 鳩貝 尚志(S54卒)  
山 茂(S54卒) 池田 嘉徳(S56卒) 佐藤 剛(S59卒)

### 総務・厚生部厚生委員会委員

○金山 昇(S57卒) ◎西山 潔(S57卒) 平井 基之(S59卒) 大谷 義之(S62卒)  
川越 元久(H1卒) 高橋 秀文(H5卒)  
協力委員 野上 宏一(S42卒) 木俣 茂(S51卒)

### 総務・厚生部ゴルフ大会委員会委員

堀 正樹(S54卒) ◎中野 正博(S55卒) ○三島 裕(S55卒) 中川路 健司(S60卒)  
山崎 眞司(H1卒) 磯野 珠貴(H4卒) 鈴木 菜穂(H14卒)  
協力委員 大谷 義之(S62卒)

### 渉外部渉外委員会委員

黒田 百樹(S42卒) 高橋 哲夫(S46卒) ◎岡野 祐三(S48卒) 荻原 英生(S48卒)  
○宮吉 正人(S60卒) 岩田 昌久(S63卒)  
協力委員 山口 堅三(S52卒) 島村 大(S60卒)

### 広報部広報委員会委員

◎臼田 準(S53卒) 古澤 成博(S58卒) 佐々木 葉子(S60卒) 志村 圭子(S60卒)  
○福井 雅之(S61卒) 渡邊 宇一(S63卒) 島田 篤(H3卒) 西村 哲雄(H4卒)  
○山口 雅史(H7卒) 宇佐美 貴弘(H9卒) 小貫 飛鳥(H9卒) 横田 東生(H10卒)  
協力委員 三友 和夫(S54卒)

### 事業推進部学術委員会委員

◎藤 関 雅嗣(S56卒) ○荻原 俊美(S58卒) ○加藤 賢祐(S62卒) 木暮 隆司(S62卒)  
牧野 寛(S62卒) 高柳 篤史(H1卒) ○福本 恵吾(H2卒) 太田 和秀(H3卒)  
渋谷 義宏(H4卒) 高橋 潤一(H4卒) 塚田 威(H4卒) 花井 淳一郎(H4卒)  
本間 敬和(H4卒) 相原 一之(H5卒) 大山 貴司(H6卒) 山本 雅通(H6卒)  
浅田 智宏(H7卒) 安藤 友彦(H7卒) 野村 幸恵(H7卒) 田口 達夫(H8卒)  
石山 智香子(H9卒) 渋谷 英介(H9卒) 石川 一磨(H10卒) 橋本 佳代子(H10卒)  
鈴木 雄太(H11卒) 柳澤 光一郎(H14卒) 大井 陽生(H16卒) 川西 慧(H18卒)  
大田 恵(H19卒) 荒木 優介(H20卒)  
協力委員 山本 英之(S55卒) 小林 顕(S56卒) 野嶋 昌彦(S57卒)  
西井 康(S61卒) 高橋 敬人(S62卒) 田中 五郎(S63卒)  
福田 謙一(H2卒) 伊藤 太一(H6卒) 浅野 裕之(H9卒)

佐藤 留美子(H9卒) 阿部 修(H12卒) 松岡 政之(H13卒)  
 堺 健太郎(H15卒) 藤田 貴久(H15卒)

**事業推進部保険委員会委員**

大木 志朗(S58卒) ◎関川 嘉昭(S58卒) 相庭 常人(S60卒) ○小筆 正弘(S60卒)  
 高品 和哉(S60卒) 山口 和彦(S60卒) 南保 秀行(S61卒) 加藤 興一(S62卒)  
 金子 久章(H2卒)  
 協力委員 渡辺 裕三(S59卒)

**事業推進部大学連携委員会委員**

◎加藤 賢祐(S62卒) 関根 秀志(S62卒) 相原 一之(H5卒) 浅田 智宏(H7卒)  
 田口 達夫(H8卒) ○上田 貴之(H11卒)

**事業推進部シンクタンク委員会委員**

稲葉 孝夫(S57卒) ◎高柳 篤史(H1卒) 太田 和秀(H3卒) ○本間 敬和(H4卒)  
 安藤 友彦(H7卒)  
 協力委員 平井 基之(S59卒)

**事業推進部若手ネットワーク委員会委員**

○坂入 道子(S59卒) 岡村 美恵子(S61卒) ◎木暮 隆司(S62卒) 牧野 寛(S62卒)  
 橋本 佳代子(H10卒) 柳澤 光一郎(H14卒) 太田 恵(H19卒) 荒木 優介(H20卒)  
 協力委員 黒田 由紀子(S57卒) 佐々木 葉子(S60卒)

敬称略 ◎印は委員長 ○印は副委員長

## 会務アラカルト

会務も順調にすすみ6月を迎えることができました。矢崎会長の重点課題である会員対策も「若手ネットワーク委員会」において熱い議論がかわされ、近いうちに若い先生と同窓会志向を高め支部に積極的に加入するようになる妙案も生まれてくるのではと期待を膨らませております。もう一つの重点課題である“大学とのより強い連携”においても、「大学連携委員会」がスタートし、大学・在校生と同窓とのつながりが深まるよういろいろなアイデアが出されるのではと楽しみにしております。

**母校国家試験合格率日本一に**

第105回歯科医師国家試験の合格率 (全国)				東京歯科大学の合格率			
	受験者数	合格者数	合格率		受験者数	合格者数	合格率
新卒	2310人	1881人	81.4%	新卒	128人	126人	98.4%
既卒	1015人	482人	47.5%	既卒	24人	22人	91.7%
合計	3325人	2363人	71.1%	合計	152人	148人	97.4%

第105回国家試験の発表がありました。母校は、全国の合格率71.1%の難関の中、97.4%の高い合格率を示し、国立私立もあわせ全国第一位に輝きました。新卒者126人、既卒者22名、東京歯科大学を卒業した148名があらたに歯科医として社会にはばたくことになりました。この数も日本一でした。

平成17年厚労相と文科相との「確認書」により歯科医師国家試験の合格基準が引き上げられるようになってから、合格率もさがり、どの学校でも100%達成が困難とされてきました。そんな状況の中、東京歯科大学では97.4%と高い合格率を示しましたことはまさに快挙なのです。

もう一つ注目してほしいことは既卒者の合格率です。国試浪人という暗い言葉も巷では使われていますが、今回既卒者合格率は全国で47.5%と大変低いものでした。しかし、東京歯科大学の合格率は、91.7%と高い数字を示しました。これも驚くべき数字で、どんな秘策があったのか興味をひきます。

5月8日(火)に国家試験の報告会があり、担当者を慰労する機会をもつことができました。平成23年度

第6学年主任の末石研二先生と副主任の先生方、既卒者主任の佐藤 亨先生と副主任の先生方、菅沼雅文教務課長、小倉 等学生課長からのお話を聞くことができました。ちょっとご披露しますと、「学生たちが一生懸命だった」「余裕のある学生が他の学生の面倒をよくみていた」「お願いすると教務課が必要なデータを準備してくれた」「個々の学生としっかりと話す機会があった」など、その状況が目に見えてきます。新卒、既卒のいずれにしても、学生、教員、職員のつながりの強さと一体感によるところが多いようで、これこそ血脇イズム・家族主義による東京歯科大学ならではのものと思います。

さて今回の結果ですが、母校の学生レベルそして教育レベルの高さが

立証されました。このことで我々同窓としましても、母校に対し誇りを持つと同時に、その大学を卒業した自分に対しても誇りをもちつい胸を張って歩いているような気がします。関係者に対し心から敬意を表すとともに、同窓として感謝の気持ちでいっぱいです。多くの同窓も同じような気持ちを持ち、今後も母校に対して強力なる応援をしてゆこうと気持ちを新たにしていると思います。国家試験の基準は今後ますます厳しくなるとのことです。「がんばって」という“気持ちと言葉”による応援も大切ですが、ぜひ同窓一丸、目に見える応援をしながら来年以降もよい成績であることを心底から期待してゆこうではありませんか。



## 新血脇記念ホール建設への協力をお願い

はやいもので新館校舎、本館校舎ができあがるのが平成25年といえますから、来年には新血脇記念ホールができあがることになります。同窓の協力で血脇先生を記念したホールを大学と同窓会との絆としてつくり上げ、大学と同窓会が一体となって大学の発展そして歯科界の発展につながればと期待します。まさに120年の歴史から、これからの120年の未来への希望につなげる大切な計画です。どのようなホールが出来上がるか、今から楽しみです。

さて血脇先生ですが、当たり前のことかもしれませんが、母校発展の

ためのみならず、本同窓会誕生にご尽力され、我々にとっては高山先生と並び始祖ともいわれる方です。今から117年前の西暦1895年、明治28年当時、血脇先生は高山歯科医学院に在籍し、第一回卒業式授与式を行い、その後の高輪万清楼にて開催された祝宴会を拡大し高山一門同窓の会合とすることとしました。これが東京歯科大学同窓会の始まりで、高山院長の了承のもと第一回校友会としてスタートしたのです。初代の会長・会頭の高山紀齋先生を引き継ぎ、明治40年から昭和18年にわたる長きの間会長・会頭を務められ、今

日の同窓会の基礎を築きあげていただきました。

そして、血脇先生と我々とのかわりには大学、同窓会だけではなく、一歯科医としての今の我々の立場とも強いつながりをもちます。日本歯科医師会の誕生、歯科医師法の制定に誠心誠意かわり我々歯科医の地位の向上に尽くされました。そして日本歯科医師会の会長として大正8年から昭和21年にいたるまで務め、今ある歯科界の枠組みを築いてくれました。こういったリーダーシップとしての血こそ脈々と東京歯科大学同窓に受け継がれているのです。冬

の時代を迎えている歯科界を次の時代に明るい未来をもった世界に変えてゆこうとする心意気が東京歯科大学同窓に力強く芽生え、水道橋の地

の「新血脇記念ホール」がその象徴になればと思います。3年後、2015年が同窓会創立120周年になります。いろいろな面でこれからの我々

にかかわりをもつ新血脇記念ホール建設への協力を、できるだけ多くの会員の協力をお願いするところなのです。

水道橋移転・新血脇記念ホール建設のための同窓募金協力の現況（5月9日現在）		
寄付ご協力人数	640人（目標6000人）	
支部・団体寄付	9件	
現在までの寄付申込総額	1億5,745万5,000円（目標：5億円）（9支部・団体寄付を含む）	
個人による寄付申し込みの内訳	地域支部連合会別状況	
	北海道	26件 462万円
	東北	35件 786万円
	関東	182件 4,298万円
	東京	184件 6,332万円
	信越	30件 720万円
	北陸	13件（1） 252万円
	東海	40件 720万円
	近畿	20件（2） 483万円
	中国	31件（2） 519万円
	四国	68件 632万円
	九州	20件（4） 541.5万円
注：この数字は2012年5月9日現在の申し込み状況です。件数は、団体件数を含み、（ ）内は、支部の団体寄付件数で、金額は、団体寄付を含んでおります。		

### 選挙規則検討へ会務検討特別委員会の設置

より透明性のつよい会務の運営ということから選挙規則をさだめることが提案されています。本執行部で

第1回理事会から検討をはじめ2回の常任理事会での検討をとおし第2回理事会において選挙規則を定める

うえでの基本的原則をとりまとめ、会務検討特別委員会に検討をお願いしました。

#### （基本原則）

同窓会改革を進める中、より透明性の高い会務の執行の観点から選挙規則の明文化が望まれている。特にこれまでの会則と施行細則で大きな混乱も無かったことから、従来のやり方を選挙規則で成文化し追認することを基本として定めることとする。

なお、選挙規則策定に当たっては、公平性、透明性を確保しながらもよき伝統を守る選挙規定とすることを柱として、それを具体化するために選挙管理委員会の設置と役割が重要であり、同時に必ずしも投票によらない別段の方法なども考慮して検討することを目指すべきだと考えている。

会務検討委員会ではこの基本原則について検討し、他の同窓会での規則の収集分析、いままでの東京歯科大学同窓会での役員選出などを見渡しながら選挙規則の検討を始めました。11月3日(土)開催されるに評議員会にむかって、評議員の先生方の前にその姿をお出しして、ご意見をうかがえることができればとスケジュールづくりしております。

#### (同窓会機構改革の一つとしての選挙規則の制定)

今回の会務検討特別委員会の諮問では選挙規則に限ることなく、同窓

会機構改革全般にかかわる幅広い課題の検討をお願いしております。ですから特別委員会では、同窓会機構改革の中の一つとして選挙規則の検討としてお願いしました。すなわち、大山執行部からはじまりました同窓会機構改革での継続的に審議すべきこととして“評議員の選出の際の一県一評議員選出の2年間経過措置”、“評議員会のあり方”などが矢崎執行部に引き継がれており、この課題をも含めて諮問することになりました。別々に委員会を設けてはとの意見もありましたが、選挙自体

その舞台は評議員会になる可能性もあり、評議員会の在り方も当然リンクしてきますのでこの形になりました。さらに、矢崎執行部の重点課題、若手の問題、支部未加入の問題、これも同窓会の機構改革に大きく関わってきますので、この課題をも含めて検討してもらうことになりました。こうなりますと特別委員会の先生方のご負担は相当なものになるかもしれませんが、皆様方の応援のもと、何とか頑張って同窓会にとって良い方向付けをしてくれると大いに期待しております。

### 平成24年度の地域支部連合会総会(支部長会)がスタート

平成24年度をむかえ地域支部連合会総会・支部長会が、4月15日(日)岡山における中国地域支部連合会総会でスタートしました。そして、5月12日(土)四国地域支部連合会総会・支部長会、5月19日(土)北陸地域支部連合会での支部長・本部役員との意見交換のための支部長会とが開催されました。本部役員がご当地にうかがい、意見交換のみならず、いろいろなご助言をいただいたり、過分なるご配慮をいただき、この場を借りお礼申し上げます。

地域支部連合会との意見交換でのメインの議題は、評議員の選出に際しての“一県一評議員の経過措置について”と“評議員会について”です。

一昨年の評議員会では、評議員数削減を目的に今までの支部単位に評議員を選出する方法から、地域支部連合会の会員数100人を単位に評議員を選出することを提案しましたが、評議員数は半分になるものの会員数の少ない地域支部では多くの県の支部長が評議員会に出られなくなるため対応を検討するよう意見がだされました。昨年の評議員会では、原則は地域支部連合会の会員数に準じるが、当分の間、すなわち2年を目途に、経過措置として少なくとも一県支部から一人は評議員を選出できるように人数を増やし、平成24年度から取り入れることになりました。しかしこの経過措置の2年間、この一県一評議員の経過措置につい

て、評議員会について継続的に検討することを条件にしていまして、まず本年度は各地域からの意見をきき、これらの意見をもとに理事会、評議員会で協議することとしています。

3地域支部連合会からのお話では、評議員選出に際しての要望、また将来の会費収入減をみこし思い切って経過措置をなくすべきとの意見、また一方で一県一評議員制度は残すべきであるとの意見がでております。今後つづけて、各地域支部連合会をはじめ各方面からの声を集めてまいりますので、その際はよろしくお願いします。



## 岡山県支部の80周年記念誌

昨年10月16日。当時の岡山県支部長斎藤治典先生（現在倉田庸生支部長）のもと岡山県支部創立80周年式典が執り行われ、このたび大変立派な記念誌をいただきました。真紅のハードカバーに燦東歯同窓会岡山の歩みのタイトルを刻み、127ページにわたり、岡山県支部の歴史を、江戸時代から刻銘な記録を紹介しながら現在に至るまでまとめた貴重なものであります。岡山県支部は大正7年に岡友会として発足し、昭和6年支部として同窓会に設立認可をうけその後80年を経過し、80周年に至っております。岡山県は高山紀齋先生

生誕の地であり、明治以降歯科医学の発展に大きく寄与した地域であり、同窓会県支部の先輩方も大変活発に活動されております。今後ますます発展されることを祈念いたします。



## 東日本大震災対策部会

東日本大震災対策部会では第3回支援金の支給を行いました。被災県支部に支援の方法をたずねいろいろなご意見を頂きましたが、やはりそれぞれの県により被災後の状況が異なり、それぞれの県支部におまかせする方が良いとのことから、第2回支援を行いました3県支部に前回とほぼ同じ割合で支援することとしました。

宮城県支部	100万円
福島県支部	100万円
茨城県支部	60万円
計	260万円

なお、ご参考に、第1回支援（平成23年6月～7月）、第2回支援（平成23年10月）は、それぞれ950万円、500万円を支給しました。第1回支援の内訳は、深刻な状況にある同窓

6名に対して特別支援金として計340万円、甚大なる被災があった5支部に対して一般支援金として計610万円支給しました。第2回支援として、被災者が多かった3支部に対して500万円の支給を行っております。

なお、現在の繰越金は以下の通りです。

協力件数	340件
協力金額	17,916,818円
支援金支出総額	17,120,860円 (振込み手数料を含む)
通帳残高	795,958円

さて対策部会としては被災地域との情報交換をより一層密にし、その後の被災地情報を同窓会報を通して全国同窓にお知らせし、被災地域の先生方と共感をもってもらえるよう

にと考えております。今回は、テレビなどの報道では感じることでできない状況、とくに“決して終わっていない”ことを、福島県支部長佐藤正矢先生をとおし西山令生先生にご執筆を依頼し、さらに震災時岡山の地から検案に宮城へ身元確認派遣団の一員として赴かれ、今でも思うところが深い渡辺 治先生にお願いしました。

西山先生の文章にあるように、福島ではいまだに放射能災害は続いています。そしてご家族との生活にも非常に大きな影響が残っています。また、渡辺先生が書かれたように宮城では町の復興は進んでいますが、心の復興は決してなされていないのが分かります。ぜひご一読のほど、お願いいたします。

## ～福島からの報告～

福島県支部長 佐藤 正 矢  
(昭和53年卒)

今朝も地震速報があった。一年が過ぎた今でも、忘れた頃に地震が起き、あの日の恐怖を思い出させる。不安、不眠、悲しみ、そして怒り。

次に起こるかもしれない地震や津波、原発事故の話題に押され、福島県は置き去りにされている感じがある。

多くの被災者の苦労はいったい誰の為に強いられたものなのか。



写真左 検視作業

寒い体育館での作業であった。広々と感じた。日を増すごとに御遺体の損傷が進み、原形を止めない。しかしながら、歯科医師による作業は結果を左右する重要な作業であることを痛感した。

写真下 津波

家も道路も幼な友達も…全て津波に飲み込まれた。

見渡せる、景色ではなく、光景。この地で育った人々にはどの様にうつるのだろうか。



## 原発事故と私 福島県でおきていること

福島県 西山 令 生  
(平成9年卒)

初めに東日本大震災に際しまして、東京歯科大学同窓会、学校法人東京歯科大学、各大学関係機関より、多大なご支援をいただきましたことをこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

この原稿依頼の内容を聞いたときに正直悩みました。現在の報道等のあり方は福島県に住んでいても福島県側がごねているようにしかうつら

ないからです。しかし、「小さいお子さんをお持ちの同窓の状況を伝えてほしい」との依頼に、日々そのことに悩みながらも福島で歯科医療を続けている私どもの現状を、報道等とは違った角度でお知らせできればと思ひ、依頼を受けました。私が開業している場所は東京歯科大学の同窓として、現在福島第一原子力発電所に一番近い診療室かもしれません。

### 地震、そして避難

さて東日本大震災、それに伴う原発事故から1年が過ぎました。現況のご説明をする前にどうしても直後の状況から改めてご報告せねばなりません。平成23年3月11日、地震が起きたとき、私は自分の診療室で処置中でした。当院はビルの4階にあります。もしかすると平地にいるよりも揺れは激しかったのかもしれ

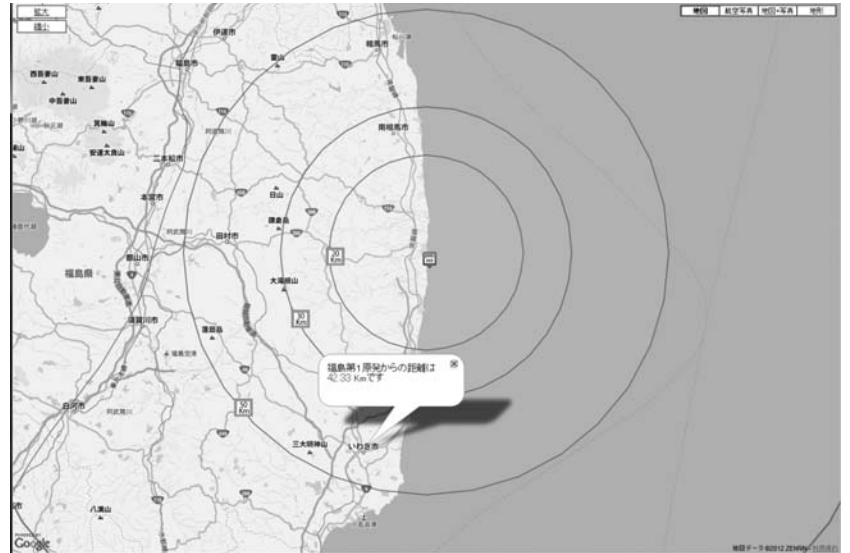
ません。診療していた患者さんはアメリカの方でしたが、さぞかし日本の地震のすごさにビックリしたことでしょう。揺れている瞬間のあの顔は忘れられません。最初の揺れが収まるとすぐに患者さん、スタッフの安全を確認した後、ビルの外に避難しました。

その後、患者さん、スタッフと今後の行動予定を決め、連絡手段が遮断されていたため自分も一度家に戻り家族の安否を確認しました。割れたガラスの飛び散った部屋の片付けなどを行い、その日は自宅で一晩を過ごしました。東北地方、いわき市沿岸を津波が襲ったことを知ったのはその晩のことでした。

3月12日になっても被害の全容はまったくつかめず、ライフラインも寸断され、復旧の見込みもまったくありませんでした。診療室、自宅ともに断水となりましたが、妊娠中の妻と2歳の子供をもつ家庭としては水が出ないと生活に支障が出るなどの軽い考えで、妻子を実家に送ることに決めました。すでにそのとき、常磐自動車道は道路の崩落により閉鎖されており、海沿いの国道を通るしかありませんでした。福島県、茨城県沿岸部の国道は津波により閉鎖されている場所もあり、度重なる余震やそれに伴う再度の津波も予測されたことから妻やその実家からは反対されましたが、押し切って出発しました。結果的には正解で、まさにそのとき東京電力福島第一原子力発



地震後診療室



いわきの位置

電所が大変なことになっているとは想像もしていませんでした。

### そして原発事故を知る

停電によりほとんど信号が消えていた国道を7時間かけて妻の実家に到着したころは夜中になり、前日からの異常な状態にぐったりしていましたが、テレビで伝えられていた原子力発電所から煙が上がる状況に目が離せなくなりました。しかし実は当初、自分としてはそんなに状況を深刻にはとらえていませんでした。数年前には東海村での臨界事故もありましたし、原子力発電所に対する根拠のない安心感もありました。福島第一原子力発電所は自宅から約40キロ、福島第二原子力発電所は約30キロで、つい1ヵ月ほど前には浪江焼きそば（ご当地グルメ）を食べに行く途中のランドマークでもありました。双葉郡からはインプラントや矯正の患者さんが多数来院されましたし、まさかあんな身近な場所で世界を驚愕させるような大事故が起こっているなど想像できませんでした。それからの出来事は報道等の通りですが、次々と爆発する映像を見て次第に焦りと不安が頭をよぎるようになっていきました。

### 陸の孤島となったいわき市

断水による日常生活への軽い不安から、妻の実家へ身を寄せましたが、次々と爆発し状況が悪化していく中で、逆に診療室に戻らなくてはという気持ちが高まっていきました。地震のあった時間に診療していたアメリカ人の方、地震の日以降予約の入っていた患者さん、診療室の院長としては責任があります。何より、今後診療室をどうしていくのか、もう閉院かもしれないとも考えながら、今度は戻ることを家族に反対されながらもいわきに向かいました。

いわきに戻った私を出迎えたのは、原発事故による放射性物質の放出による危険性と、ガソリン、食料品、日常に必要な様々な物不足でした。聞いた話ですが、県境で検問が行われ、県外ナンバーの車両は引き返すよう指示されていたようです（それでも行く場合は自己責任）。外出は避けるように指示が出され、消防団の人たちが各家を回っていききました。エアコンの使用も控えるように言われたそうです（放射性物質が室内に入る恐れがあるため）。原発事故が起きるまでは元気に畑仕事をしていた99歳の祖父がおりました





市内各所にある線量計

が、外出をしないように指示が出て家の中だけにいるようになってから足腰が弱り、転倒して大腿骨を骨折、入院中に肺炎になり、100歳を目前にして昨年他界しました。

いわき市内はただでさえ、地震、津波により被災しているところに原発事故による影響で大混乱に陥り、放射性物質が放出され外出自粛とされているのに食料品や水を手に入れるため、長時間外で並ばなければならないという酷い状況でした。私の診療室があるいわき駅前からは人が全くなくなり、ゴースタウンと化した街並みとしてテレビにもよく登場しました。寸断されていたライフラインもいつ復旧するのかわからず、断水の続く診療室は再開の見込みが全くありませんでした。

私は妻の実家といわきを行き来して食料や水を運んでいましたが、開通した常磐道を原発へ決死の覚悟で向かう東京消防庁や自衛隊の特殊車両とよくすれ違い、それを見るたびに目頭が熱くなっていました。

### そして避難生活は長期化へ

原発事故の先行きは全く見えないまま、街は不思議と日常を取り戻していきました。いや、日常とはほど

遠い状況でしたが、日々の生活は落ち着きを取り戻し始めました。私の診療室も4月から診療を始めることができましたが、患者さんはまばらでした。診療を再開してすぐにいわき市を震源とする震度6の余震?が4月11日、12日と連続しておき、地震の片付けを3回やることになりました。その後、震度5が一日に3回あるなど余震が続きましたが、診療室は続けられました。診療室が続けられた大きな原因は、表面上原発に大きなトラブルがなかったからです。現場の作業員の方や人づてで聞き及ぶ話で実際には報道や政府発表と違い当初からかなりまずい状況であることが推測できました。この状況で妊娠中の妻をいわきに戻すわけにも行かず、出産は避難先でとなりました。もちろん、出産後もすぐに呼び戻すわけにも行かず、家族ばらの生活が続くことになりました。

私事ですが、一人目の子供の時は妻が出産から1年弱入院、子供はその間預けることになり、二人目の子供は避難のため別居、すくすくと育っていく過程を見られないことは、一人の親として非常に残念であると同時に、寂しい限りです。「パパ、帰らないでー」と言って、泣きながら車を追いかけてきた娘の姿が今でも忘れられません。

二重の生活により生活費は二倍ですが、震災の影響による約1ヵ月弱の休診で、昨年の医業収入は前年と比較して約3分の2となりました。また、家族のもとに向かう高速道路の無料化や各種支援なども次々と打ち切られ、残念な限りです。

### そして現在

現在、長女は4歳、長男は6ヵ月になりました。日々成長していく子供たちを傍らで見守ることができな

いことが非常に残念です。いわき市は福島県の中でも比較的放射性物質の線量は低く、「家族はいつ戻ってくるのか?」と聞かれることもありますが、しばらく戻すつもりはありません。うちのような自主避難組は珍しくはありませんが、そろそろ周囲との気持ちの差も感じ始めました。「いわきは原発も放射能も大丈夫なのに、なぜ避難させたままなのか?」、「みんなで復興を目指しているのに、なぜ避難させたままなのか?」などの雰囲気です。もちろん、復興に協力するのは当然と考えていますが、今後何もないとの保証がないことも確かで、毎日ように余震があるいわき市では、小さな子供を安心して育てる環境ではないと感じています。

国内では復興バブルと言う言葉もあり、福島以外ではそれなりに復興が進んでいるようですが、福島県は何よりまだ事故原発からの放射性物質の放出が続いているという、もうほとんど忘れられている事実があります。福島県の災害はいまだに継続しています。

また、今後いわき市で開業する同窓がいるとも考えにくく、現在、福島県浜通りで同窓会最年少の自分とはあと数十年にわたり、最年少だろうなあと考えています。

何か書いてくれと言われて、どうしてもネガティブな内容になってしまいましたが、自分自身としては今後を前向きに考えています。それは全国の同窓の先生方からの励ましのお言葉や温かいご支援をたくさんいただいたからです。自分一人の頑張りでは変えられないものもありますが、同窓の皆様のご声援は何より心の支えになります。

これまでのご厚情に感謝するとともに、今後も福島県へのご支援、ご声援をよろしくお願い申し上げます。



## 「頑張って」と言える日まで

岡山県 渡 辺 治

(昭和48年卒)

東日本大震災から一年を過ぎた今年3月中旬に、気仙沼で開業している同級生の鈴木一雄先生から一通のメールが送信されてきた。その「私、海に戻ります」と題されたメールには、一年前の絶望と苦悩に満ちた様子から徐々に元気を取り戻している彼の写真が貼付されていた。笑顔でお正月に海外から一時帰国された息子さんとお正月早々趣味のダイビングに行った時の船上での写真であった (fig.1)。読み進むうちに次の様などんでもないことが書いてあった。

『マスコミは被災地で元気な人の映像を良く取り上げますが、元気でないの方が圧倒的に多いのです。その中でも行方不明者のご家族の気持ちは計り知れないものがあります。私は昨年末から準備を整え勝手に一人捜索を始めました。一人のダイバーとして海中での捜索です。海保・県警もダイバーを投入していますが、結果は出ておりません。』

新たに中古のボートを譲り受け、船外機とダイビング用具を揃え、何と一人でお正月から気仙沼の海に潜っていると書かれていた。気仙沼の海は水深40mで、この時期海底



fig.1

に冬のドライスーツを着ていても5分しか滞在できないそうです。いくらダイビングが趣味で知り尽くした気仙沼の海とは言え、まさか一人でご遺体捜索のため潜っているとは。気仙沼の行方不明者は現在324名、身元不明者が83名だそうです。

これを読んで私はしばらく返信することができなかつた。後日ただ健康だけには気を付けて、無理せず潜って下さいとだけ書いたメールを送信した。

こういった彼の行動をどう考えれば良いのか、今でも答えを考えつかない。

私は人的被害が死者15,146名、行方不明者8,881名を数えた昨年5月18日から24日までの一週間、宮城県歯科医師会と宮城県警察の要請を受けて、ご遺体の身元確認作業に従事するため、岡山県歯科医師会の身元確認派遣団の一員として現地で身元確認作業に従事して来た。

昭和48年に卒業し直ちに山村教授の病理学教室に入り、その後当時の東北歯科大学に勤務し、12年間を福島県郡山市で過ごしたことから、多くの知人・友人が東北各県各地におり今でもおつきあいを戴いている。

発災当日から何とか連絡を取り安否を確かめたいと携帯電話、固定電話、メールをし続けたが、最初にやっと連絡がついたのは発災3日目に仙台にいる馬測量平先生 (S46年卒) だった。幸い被害はなく、ライフラインが止まっているだけと言うことであった。その後続々と連絡が

とれそのほとんどが診療所は被害にあったが、住宅は被災を免れ、人的被害もなかったと言うことで、不幸中の幸いと胸を撫で下ろした。発災から2ヵ月を過ぎ、いつになったら身元確認の要請が来るかと思っていた頃、前述した5月中旬に要請を受け、慌ただしく現地へ向かった。

今回の派遣を前に、

1. 歯科医として犠牲になられた方の人間としての尊厳を守るためにも、きちんと身元確認を行い一刻も早くご遺族の元へお帰しする。
2. 被災された方に安易に「頑張って」とは言わない。

この二つの誓いを立てて現地に赴いた。

東京からの車窓の風景は所々ブルーシートを掛けた屋根はあるもののそんな大規模な地震があったとは思えない、昔懐かしい東北の初夏の風景であった。

仙台到着後、県警が用意してくれたホテルに入り、我々と交代の山梨県歯科医師会の先生と会うことができ、色々情報収集が出来た。

午後7時に宮城県歯科医師会館に集合し、そこで宮城県歯大規模災害対策本部身元確認班長・江澤敏光先生、宮城県警刑事部機動鑑識隊・伊藤哲雄隊長から現在の現地の状況、ご遺体の捜索状況、実際の身元確認手順など (福島方式と言って日歯のチャートとは若干違う) の説明があり、すでに発災2ヵ月を経過していることもあり、顔貌での確認は無理なので、歯科レントゲンでの確認をしたいので、出来るだけご遺体

のレントゲン撮影をお願いしたいとのことで、デジタルポータブルX線装置 (DEXICO) の使用説明と撮影の実習を行った。

翌19日から毎朝県警迎いの車両で県警本部に一旦集合し、現地の状況、その時のご遺体数などのブリーフィングを受け、4班に分かれてこの時ご遺体の検案、身元確認の出来る遺体安置所である角田市旧角田女子高校・石巻市旧石巻青果・花き中央卸売市場・南三陸ベイサイドアリーナ56・気仙沼市すば一く気仙沼の4カ所に分かれて当該安置所へ向かった。

初日私は宮城県の南端福島県に近い角田市へ向かった。仙台市内を抜け仙台東部道路に入ったあたりから水田地帯に多くの漁船と破壊された車両が目につくようになり、名取川、阿武隈川の堤防と直角に交差する所では、それらが山のように集積し、津波の威力にただ驚くばかりであった。倒壊した家屋は原型すらとどめず畑の中に瓦礫となり散乱していた。遠く雪を戴く蔵王連峰は朝日に輝き何事もなかったかのように美しく、現実の風景との違いに言葉なく見つめているだけだった。

旧角田女子高校に到着後、直ちに4例の照合があった。午前中運び込まれるご遺体もなく、同行の東京都監察医務院の高橋先生から発災当日から運び込まれたおびただしい数の犠牲者の話を聞き、一瞬にして愛する家族、友人、知人を失った人の気持ちを考えると一刻も早く身元を確認し、それぞれの家族の元へお返しすることが、我々の務めだと改めて心に誓った。この日までここには932体ものご遺体が運び込まれていた。安置所には未だ身元確認がされていないご遺体も含め、多くのご遺体が安置されていた。

買って来たコンビニ弁当の昼食を

高校のグラウンドでとり、一休みしているところに警察電話で、岩沼警察署にご遺体搬送ということで、直ちに岩沼署に向かった。ご遺体は70歳位の男性。近くの水田の瓦礫の中から発見されたそうで、持っていた免許証から住所、氏名が判明しかかりつけ歯科医のカルテのコピーが添付されていた。警察官による検視が終わり、高橋先生の検案後、我々の検死・チャート作成が行われた。この男性は上下顎総義歯で義歯装着のまま発見され、添付してあるカルテと義歯の修理痕が一致し、幸いにも即座に身元確認がなされ、ご遺族に引き取られた。

この時期さすがに東北とはいえ、気温も20度を超すこともあり、ご遺体の腐敗・損傷が激しく、ご遺体が搬入されるたびに若い警察官が数人でご遺体の洗浄を行ってくれ、ある時は頭髪を愛しむ様に櫛を入れる姿に、感謝の気持ちと彼らの使命感に頭の下がる思いがした。

翌日はこの時期でもまだまだご遺体の収容が多い日で十数体もある石巻市の旧石巻青果・花き卸売り市場へ向かった。10時前現地到着。警察車両で準備し、市場入り口を入るとヘドロと屍臭の入り混ざった独特の臭気が鼻をつく。すでに数体のご遺体が搬送され、警察官による検視が始まっていた。ここには警視庁のチームが派遣されていた。

我々も直ちに前日からの照合作業にとりかかる (fig.2)。午前中照合



fig.2

3件、検死3体をこなした所で昼食。警察車両の中で食事をする間も、安置所にはご遺体を引き取るご遺族の方、また今なお行方不明の家族を捜す人が後を絶たず、未曾有の震災・津波の残した被害の大きさを改めて思い知らされた。

突然愛する家族、知人友人を突然失った人達の胸の内を思うと、何とも理不尽な腹立たしさを覚えるが、自然を前にした人間の弱さ、無力さを感じざるを得なかった。

昼休みに警察の計らいで、被災地区を案内してもらった。旧北上川を中心に広がった人口160,000人の暮らす石巻に、私も福島在住時代家族で2度ほど訪れたことがあるがどこがどこか皆目見当がつかない程破壊され、瓦礫の山となっていた。

旧石巻青果・花き卸売り市場には発災直後17日には500体、二週間後1,000体、三週間後には1,500体ものご遺体で広い場内は満杯になったそうで、余りにも多くのご遺体に焼却炉の手配も間に合わず、ご遺体の損傷、感染症の発生なども考慮して、行政はついに焼却なしでの仮埋葬に踏み切った。我々が訪れた時も旧北上川河川敷の公園の一角に、仮埋葬場が設置されていた (fig.3)。小さな木の板に名前が書かれ、あるいは身元確認されていないご遺体は番号だけが記されていた。このような形で家族を祀らなければならないとしたらどんな気持ちか、その心中は察するに余りあり、思わず手を合わせ



fig.3

ずにはいられなかった。

午後からも4件の照合と2体の検死を行い一日の任務を終えた。仙台への帰路についた直後、警察無線で更に3体のご遺体が搬送されたとの情報が入ったが、やむなく翌日へ積み残した。

この日市内最大の避難所である湊小学校近辺の港湾を中心とした行方不明者の一斉捜索が行われていた関係で、搬入されるご遺体も多かったようだ。

今回の身元確認作業で使われたチャートは、普段我々が使用している日歯のチャートとは違って、福島方式と呼ばれ、立体的に各歯の充填物等の記載が可能で、より正確な情報を得ることができる。しかしこの方式に慣れない我々には最初戸惑いがあったのも事実で、今後のことを考えると最も効率的な記録形式を統一して欲しいと感じた。

翌日8時に警察からの迎えの車で県警本部へ。今日は最も遠い気仙沼への移動。同級生の鈴木先生の無事は岡山を出発する数日前に確認しており、私が19日から23日のどこかで気仙沼に行く旨伝えてあった。後日先生からのメールで知ったことだが、先生は発災3日後から我々が行く直前まで2ヵ月の間2日行って1日休み、2日行って1日休むという過酷な身元確認作業を続けていた先生の歯科医として、また人としての行動にはただ頭が下がるだけだ。

気仙沼まで約2時間半の道のりは、途中支援物資を運ぶトラック、自衛隊の車、警察車両でかなり渋滞していた。ようやく11時前に気仙沼の検案・安置所であるすばーく気仙沼に到着。早速1体の検死を行い、チャート作成。お昼過ぎ鈴木先生が訪ねて来てくれる。卒業以来一度も

会ってはいないが、学生時代そのままお互い頭が少し薄くなったほかは余り変わっていなかった。先生から発災当日のことを色々聞いている間にも、2体のご遺体が搬送され、先生も手伝ってくれて検死を終了。ここでのご遺体は、特に<sup>ししおり</sup>鹿折地区からのそれは、津波後大火災が発生したこともあり、焼死体が多かった。我々の検死したご遺体もすべて焼死体であった。

DNAでの身元確認用に白歯の抜歯を依頼されることも多く、特に炭化してしまったご遺体では男女の性別もつかず、このような場合歯によるDNA鑑定は有効だと思われる。しかし今回のように家族全員が亡くなっている様なケースでは、対照となるDNA資料もなく困難を極めるのではないだろうか。

この日の仕事が終わり、「とにかく身体には気をつけて、今度は楽しいことで会いたいものだね」と話し別れを告げて車に乗り込んだ我々を、ハンカチを目に見送ってくれた先生の思いはどのようなものだったのだろうか。発災当日から常に恐怖と絶望と緊張に苛まれていたに違いない先生はそれでも歯を食いしばって凄惨な身元確認作業に従事し、おびたご遺体を検死していた。遠路訪ねて行った同級生に一瞬気を許してくれたのか。一緒に写った写真を見ても先生の深い苦悩が見取れる (fig 4)。「頑張ってたな」と、そこまで出かかったが思いとどまった。頑張っているに決まっているし、もうこれ以上何を頑張れと言うのだという気持ちだと思う。我々が何となく「頑張れ」という一言がどれほどその人に絶望を呼ぶか。口に出さなくて良かった。

私が訪れたとき患者さんの半数近

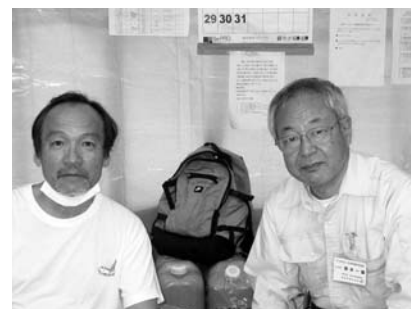


fig 4

くが被災され、70名近くの方が亡くなったと話してくれたのを思い出し、彼の患者さんを思う気持ち、歯科医としてのひたむきな誠実さをみた思いがした。笑顔の戻った彼に、今度こそ「頑張れ」とエールを送りたい気持ちだ。

気仙沼での作業のあと再度旧角田女子校、旧石巻青果・花き卸売り市場での検死・身元確認作業を終え今回の任務を終了した。

最後にこの大災害に直面し、我々歯科医に何が出来ただろうか。日本歯科医師会の動きは迅速であったと思う。発災当初から全国的に身元確認のための歯科医や医療支援チームを派遣し救援物資を送り義援金の募金活動も各都道府県歯科医師会を通じて行ってきた。ただあれから一年を過ぎ被災地から離れれば離れるだけ、あの忌まわしい出来事が風化して行っているように感じている。

実際私の診療室でも話題にすら上らなくなっている。被災地を見、現地の風を肌で感じ、匂いを嗅いだ者の一人としてこれからはこのことを語り継ぎ、「風化させない」ことが最も必要なことだと感じています。「皆から忘れられていない」と被災した人達が思えることこそ我々に来る最大の支援ではないだろうか。

## 新入会員（卒業生）に同窓会のオリエンテーション実施

平成23年度の卒業生に対する、同窓会新入会員オリエンテーションが、3月15日(木)に千葉校舎第4教室でおこなわれました。

同窓会から新入会員へ、東京歯科大学同窓会会員章をはじめ、同窓会案内・同窓会役員名簿・支部長名簿・会則・平成24年2月号会報・TDC 卒後研修セミナー2012案内およびプログラム・インプラントセミナー2012プログラム・特別受講申し込み書・割引券・割引券利用案内が、今年度新たに作成された同窓会バインダーの中に納められて渡されました。また、会員名簿は持ち帰っていただくには重いので、後日配送の準備がされました。オリエンテーションは今年度より同窓会常任理事として大学連携委員会を担当されている河田英司教務部長が司会をされ、卒業生も緊張の中にも和やかに始まりました。はじめに矢崎秀昭会長から「大学の同窓会は、高校までの同窓会と違い、社会に向けてのネットワークに繋がり一生涯仕事を続けていく上での基盤となる。120年を誇る同窓会が皆様を支援する」との励ましのお言葉が贈られました。続いてスライドを使ってプレゼンテーションがおこなわれました。藤関雅嗣学術委員長からは、東京歯科大学同窓会の組織・構成について



説明がされ、本学の卒業生は卒業時に全員が入会し永久会員であること、そして必ず帰省先・居住地・大学のどこかの支部に属し、移動の際には速やかに届け出をする義務の理解をもとめました。また、学術委員長の立場から東京歯科大学同窓会は全国に先駆け1975年より卒後研修セミナーが開催され高い評価を得ていること、また生涯研修および臨床家の視線での研修の重要性および学術委員会活動全般の説明がされました。若手ネットワーク委員会高野常任理事からは、「ようこそ同窓会へ—歯科医師への第1歩—」というテーマで、自分の開業実態の紹介か

ら、女性歯科医師ならではの視線で、結婚・出産・育児・家事とともに仕事を続けるワークバランスの大切さ・同窓会・歯科医師会・大学を通じた社会性を持つことの必要性、そして「—1人で頑張りすぎないで—」というメッセージが告げられました。最後に財部正治総務担当常任理事より、事務手続き案内・配布資料確認がされました。卒業式を翌日に控えた中でのオリエンテーションでしたが、新入会員の真面目な視線に、ともに協力し合い、若手の活躍を同窓会が心より応援していく責務を感じました。

### 平成24年度 新入会員(第117回卒業生)

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
青木 栄人	阿部 玲子	井口 達也	伊藤 宗一郎	遠藤 大雅
赤木 真理	荒川 啓太郎	生地 拓也	伊藤 泰隆	大久保 康彦
浅井 雅敏	飯島 佑斗	池田 朋子	岩脇 清一	大森 裕子
後村 純史	伊尾 歌織	石川 宗理	海老沼 愛子	大山 陽子

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
岡嶋 伶奈	黒岩 功	杉山 修平	根木 沙枝子	堀 文子
岡田 好広	郡司 秀美	鈴鹿 里沙	野口 知玲	堀口 美貴
岡村 祐利	河野 立行	鈴木 愛乃	野添 陽平	堀米 裕美
小川 真	小谷 隆博	鈴木 克彦	萩原 綾乃	前山 恵里
小原 優美	小西 浩介	鈴木 惇也	服部 寛子	松木 雄二郎
小高 研人	小林 孝誌	住谷 雄大	鳩貝 翔	丸茂 悠樹
小田嶋 秀	小林 俊亮	関川 翔一	花房 秀行	三島 倫太郎
小原 拓真	小林 真也	高島 理恵子	林 佑樹	三邊 正樹
梶田 真央	五味 由季	高野 まどか	原 貴麗	三宮 島美
柏村 昇智	斉藤 美香	高橋 俊胤	原田 圭佑	宮本 佳奈
加藤 博麻	坂田 亮	高橋 真緒	平木 圭司	村松 優樹
加藤 真輝	佐古 彩乃	高本 理敏	平田 淳昌	茂木 知宏
金田 勇輝	佐藤 彩乃	多田 海人	平野 敬皓	望月 正太
川上 響子	佐藤 讓哉	玉手 秀典	平山 皓一	藪下 雅子
川上 洋一	佐藤 涼一	田村 朋果	福藤 倉國	山下 健太郎
川上 良明	佐藤 涼一	露木 悠	藤倉 美尚	山澄 尚大
北澤 正太郎	佐野 陽祐	土岐 真里佳	藤野 美巨	山田 晃輔
北村 啓	椎貝 康彦	永井 圭喜	藤原 越彩	吉村 慎一朗
北村 慶	塩崎 雄大	中山 圭一郎	船越 彩子	渡邊 淳司
金 亨俊	清水 耐我	中山 総一郎	古川 和奈	渡邊 美貴
久保 宗平	清水 春紀	名古屋 美乃	古山 遼健	
熊澤 由記	杉内 亜紀奈	沼田 由美	風呂本 健	

以上128名

## 研修医(修了者)への同窓会， 歯科医師会についてのオリエンテーション

(千葉病院にて)

平成24年3月21日(水)に千葉病院の23年度の研修医(90名)に対して、大学及び総合診療科のご理解のもと、臨床講義とともに矢崎会長と宮地副会長による同窓会や歯科医師会についてのオリエンテーションが行われました。昨年は東日本大震災により、卒業時の同窓会についての説明会が行われなかったこともあり、同窓会の組織の紹介、会則や各種の案内文、卒後研修セミナーのお知らせなどの配付と共に、同窓会から研修医に贈呈する「保険の解説本」の送付先の登録などをしてもらいました。



宮地副会長はまず哲学者の堀秀彦随筆、正岡子規の仰臥漫録を引用し食べることや歯の重みについて紹介し、次に30年以上に及ぶ長期症例からその時間経過を辿り、歯の喪失をどう受け容れ、どのようなコースを予測し、どの時期にどんな対応を選択したか、そして結果をどのように評価し考えたか、次の臨床にどう生かしていくかという臨床講義をおこないました。その話の途中や講義の後に、特に本学同窓会が誇る卒業研修について、生涯研修の重要性と、さらに若手同窓の支援のための研修会の開催についての説明が行われました。特に歯科医師へのスタートラインに立った臨床研修医がこれからの生涯学習に取り組む姿勢について、学生は“理解し納得”する学

習方法だったが、臨床では“体験し体得”することが大切でその“納得から体得”への切り替えこそが卒業後の大きな課題だと強調され、そのことを主題とした若手向けのベーシックセミナーを同窓会学術で企画していること、卒業後に受講した若手の体験レポートも一緒に紹介されました。

矢崎会長からは高齢社会における義歯を中心とした臨床についての講義の後、同窓会の組織機構、存在意義、さらに歯科医師会の果たしている社会的意義についての説明が行われました。研修医修了後は必ず地域の同窓会各支部に所属し、生涯に渡って共に歯科医療に取り組むことから、母校及び同窓会員同士の連携

の必要性についての話がありました。

特に最近では歯科医師会に入会しない傾向が強いことから、歯科医師会の果たしている役割についての解説がありました。その中で、最近発刊されました日本歯科医師会の大久保会長が編纂された、「生活の医療」（生きる力を支える歯科医療）の本を配付し、現在の歯科医療は全身の健康に関与し、特に健康な長寿を支えるために不可欠であるとの話がありました。

研修医の方々は皆さん大変熱心に受講されておられ、そして4月22日に開催された、第1回目の卒業研修セミナー（ベーシックセミナー）へ多くの方が参加の申し込みをされました。

#### （水道橋病院にて）

平成24年3月19日（月）水道橋校舎6階研修室で、東京歯科大学水道橋病院歯科医師臨床研修終了式後、研修医にむけて、同窓会オリエンテーションがおこなわれました。終了式は9時より古澤成博研修管理委員会委員長の司会のもと、研修医ひとりひとりに修了証が授与され、高野正行副病院長より訓辞があり、そして症例報告会優秀賞の発表がありました。

引き続き、若手ネットワーク委員会担当高野博子常任理事から、東京歯科大学同窓会の組織・構成について説明がされ、同窓会会員になった自覚を持って今後は必ず帰省先・居住地・勤務先（大学含む）のいずれかの支部に属し、移動の際には速やかに届け出をする義務の理解を求め



ました。また参加者の14名中9名が女性という状況も踏まえ、女性歯科医師のワークバランスの大切さ、生

涯の研修の重要性から卒業研修セミナー参加を呼びかけました。

# 第40回同窓会主催全国ゴルフ大会

## 会員親睦ゴルフ大会へのお誘い

会長 矢崎 秀昭

本年の同窓会会員親睦ゴルフ大会は、長年に渡りこの事業の発展に尽くされてこられた同窓会ゴルフ大会委員と茨城県支部の方々のご尽力により1960年にオープンしました名門の「大利根カントリークラブ」にて開催されることとなりました。

大利根ゴルフ場は日本オープンはじめ多くのプロ競技が行われ、歴史に残る名勝負が刻まれております。シングルの方から、ゴルフを始められたばかりの方まで、素晴らしいコースを満喫して戴けるとおもいます。

前ゴルフ大会委員長の酒井雄学先生には本当に長年に渡りこの大会の発展にご尽力賜わり、誠に有難うござい

ました。本年から中野正博先生（S55年卒）が委員長になられ、諸先輩のご指導を賜わりながら、若い世代の委員の方々を中心となって運営をされることとなりました。出来るだけ幅広い年代から、より多くの会員の方々の参加を戴き、この会の目的である同窓の親睦と連携を深める大会になるよう種々企画されております。

長年に渡りご参加賜った先生には、今後とも絶大なるご協力をお願い申し上げますとともに、初めて参加される先生や女性の方々のご参加も宜しくお願い申し上げます。



東コース 1番ホール



東コース 4番ホール

----- キーリートーリ線 -----

## 第40回 同窓会主催全国ゴルフ大会申込書

所属支部名 \_\_\_\_\_ 氏 名 \_\_\_\_\_ 卒業年度 \_\_\_\_\_

住 所 〒 \_\_\_\_\_ TEL ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_ ハンディキャップ  
(プライベートでも可) \_\_\_\_\_

通信欄

参加費7,000円を添えて申し込みます。



## 第40回同窓会主催全国ゴルフ大会ご案内

第40回ゴルフ大会は、茨城県大利根カントリークラブ東コースにて開催いたします。

当コースは日本を代表する林間コースで、日本オープン、日本女子オープン、レクサス選手権など数々の公式競技が行われた戦略性と完成度の高いコースです。

会員各位におかれましては奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

開催日時 平成24年9月27日（木）

会場 大利根カントリークラブ 東コース

〒306-0633 茨城県坂東市下出島10

TEL 0297-35-1344

FAX 0297-35-1348

交通車利用 常磐自動車道

谷和原 IC から12km

（柏ICからは渋滞が予想されます）

電車利用 つくばエクスプレス

守谷駅下車約30分

守谷駅西口よりクラブバス

（要予約・前日15時まで）

競技方法 18ホールストロークプレイ

（ダブルペリア方式）

参加費 7,000円（含パーティー費、賞品代）  
その他は個人払いとします。

参加人数 160名

申込期間 平成24年7月1日～7月15日

申込先 東京歯科大学同窓会ゴルフ大会係宛

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

TEL 03-5275-1761

申込方法 参加申込書に所定事項記入の上、会費7,000円を添えて、現金書留封筒でお申し込み下さい。クラス会単位その他のコンペ同時開催による一括申し込みの場合も申し込み時に必ず全員の参加申込書と会費を添えてください。なお、電話での受付はいたしません。

追記 本大会についての詳細は大会実施要項として、参加申込み手続き終了の方に直接お送りします。その他ご質問お問い合わせ等は下記委員をお願いいたします。

中野正博 TEL 03-3862-6480

◎宿泊 下記に各自お申し込みください。（割引なし）

東横イン（つくばエクスプレス守谷駅前）

〒320-0015 守谷市中央2-16-9

TEL 0297-47-1045

プレー料金 ゴルフ場のご厚意により昼食込み19,800円



東コース 12番ホール

# 理事会のうごき

## 第2回理事会

平成24年3月17日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 32名

議長 矢崎会長

### 会長挨拶

各委員会も立ち上がり、会報も発行され、安心している。また15日には母校卒業生に対する同窓会オリエンテーションを行い、若手会員対策をアピールすることが出来た。協力いただいた高野常任理事、藤関委員長に感謝する。

本日はさいかち坂校舎竣工式でもあり、行事が重なるため円滑な進行をお願いする。

### 黙 禱

川崎支部・小島薫正氏他14名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

### 会務報告および承認

- 1) 平成24年2月17日から平成24年12月25日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
  - (1) 総務・厚生部：①支部長交代について1件報告、承認。②支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について1件報告、承認。③3月15日現在の支部長名簿を配付、報告。④各種委員会委員の委嘱について報告、承認。⑤逝去会員について、規定により弔慰共済金を支給した旨の報告、承認。⑥厚生委員会報告。⑦母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑧情報ネットワーク推進会議報告。⑨同窓会会務運営協議会報告。⑩東日本大震災対策部会より罹災見舞金1件支給した旨報告、承認。⑪東京歯科大学病院診療録指導委員会委員推薦について報告、承認。
  - (2) 渉外部：①渉外部委員会報告。②東歯関係日歯役員・代議員、都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会について報告。
  - (3) 広報部：①広報委員会報告。②同窓会 HP アクセス状況の報告。
  - (4) 事業推進部：①事業推進部全体委員会・企画会議報告。②学術委員会報告。③ TDC 卒後研修セミ

ナー2012、インプラント 세미나・マスターコースについて説明。④保険委員会報告。⑤シンクタンク委員会報告。⑥若手ネットワーク委員会報告。新入会員および研修医修了者へのオリエンテーションに対する説明。

### 各地域選出理事報告

- 1) 早速理事（東京）  
文書により事業日程について報告。
- 2) 太田理事（東海）  
文書により事業日程について報告。
- 3) 小徳理事（中国）  
口頭により事業日程について報告。
- 4) 久保田理事（四国）  
①支部に東歯在校生・卒業生の情報が少なく、どこまで情報提供してもらえるか母校と検討してほしい旨、要望。②連合会開催に当たり、会員数が少ない時には近隣の支部が協力する事を検討していくとの報告。

### 協議事項

- (1) 同窓会役員選挙規定の基本原則について協議の結果、承認。
- (2) 「同窓会役員選挙規定」について、選挙規則制定に向けて特別委員会を立ち上げ諮問する提案に対し、協議の結果、諮問に対しては承認、諮問内容の文言については会長一任とする。
- (3) 第3回理事会を移動理事会とする旨の提案があり、協議の結果、承認。
- (4) さいかち坂校舎竣工式祝金支出について承認。
- (5) 会費、共催負担金納入延期願いについて2件承認。
- (6) 会費、共済負担金納入免除願いについて1件承認。
- (7) 罹災共済金の支出について1件承認。
- (8) 評議員選出の依頼と届出要項について協議の結果、承認。
- (9) 東日本大震災対策第3回支援金を3支部に支給することについて協議の結果、承認。
- (10) 支部、地域支部連合会と本部との連携強化に対する方針について確認。
- (11) 同窓会組織改革の経過措置のあり方・評議員会のあり方について、支部連合会・支部長会の意見を伺いながら方向性を見いだしていきたい旨の提案があり、協議の結果、承認の上継続審議とする。

## 東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と 同窓会役員との懇談会



第170回日歯代議員会1日目の3月8日(木)の午後6時より飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント3階「千鳥」において東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会が開催されました。

出席者は，東歯関係の日歯役員5名，日歯代議員18名，都道府県歯会長5名，同窓会役員21名，そして，ご来賓として母校の金子 譲理事長，井出吉信学長にご列席頂きました。

佐々木眞澄常任理事の司会進行で，まず，宮地建夫副会長が開会の辞を述べ，つづいて，矢崎秀昭会長より「大震災より1年が経過した。被災された方々には，改めてお見舞いを申し上げたい。同窓会員数が減少する一方で，全国各地域で活躍されている同窓も少なくない。今後，若手会員，女性会員への対策が重要課題と考えている。母校の移転も順調に進んでいるので，今後より一層の母校への支援・協力をお願いしたい」との挨拶があった。

この後，大久保満男日歯会長，村上恵一日歯専務理事，柳川忠廣日歯常務理事と，高木幹正日歯連盟会長，島村 大日歯連盟理事長とが順次ご来場になり，大久保日歯会長と高木



日歯連盟会長より，それぞれ日頃よりの会務への協力のお礼を含めたご挨拶を頂戴しました。

つづいて，ご来賓の金子理事長と井出学長より，同窓の支援に対するお礼と，「大学移転は順調に進んでいる。移転の効果が大学への志願者数にも表れて順調である。素晴らしい新血協記念ホールにしたいので，今後一層の支援をお願いします」とのご挨拶を頂戴しました。

つぎに出席者の紹介にうつり，その中で，日歯常務理事の富山雅史先生(昭和57年卒)と中島信也先生(昭和59年卒)，日歯理事の森原久樹先生(昭和43年卒)と中村宣夫先生(昭和55年卒)から，それぞれご担当の会務内容につきご紹介頂きました。



この後，浅野薫之日歯代議員の座長のもと懇談会は進行され，第170回日歯代議員会の総括報告を藤原元幸日歯代議員より頂戴し，つづいて同窓会の会務報告を高橋義一専務理事が行い，最後に，梅村長生副会長が閉会の辞を述べました。

この後，会場を2階の「悠久」に移した懇親会では，加藤木 健副会長の開会の辞，矢崎会長挨拶，そして大山萬夫同窓会名誉会長の乾杯の発声で，懇親会は終始和やかな雰囲気の中進行し，出席した各日歯代議員，都道府県歯会長より，それぞれスピーチを頂戴しました。

最後に鳴神保雄顧問から総括を頂き，佐瀬俊之副会長の閉会の辞で終了しました。



## 卒研セミナーレポート

### 「初診の患者さんをどうみるか？」

#### ～診察と検査の Point～

2012年4月22日（日）TDCビル13階にて今期最初の卒後研修セミナーが「初診の患者さんをどう見るか」～診察と検査の Point～という内容で開催されました。開校式が矢崎秀昭同窓会会長、宮地建夫副会長、小林慶太常任理事のご挨拶で手短に行われました。

会場の雰囲気は、リクルートスーツを着た若い先生が多く入社式のような緊張感がありました。この講習は、実際の症例をもとに診査し、問題点の抽出と、診断、治療計画をチュートリアル形式で練っていくというものでした。最初は全員で1症例の診断を受講生一人一人にマイクを向け質問し、受講生の緊張をほぐしながら講習形式を練習していました。その後、8人程度のグループに分かれて2症例のディスカッションが行われました。チューター（班講師）のリードで受講生の意見を引き出し活発なやり取りが行われていました。再度、受講生全員が集まり、チューターから各班の診査、診断、治療の流れについて発表して頂き、続いて症例を実際に治療した先生か



ら治療経過について説明がありました。

午前中最後に藤関雅嗣先生から「初診時に見るべきポイントと必要な資料」という演題で講義がありました。客観的な資料を集めることの重要性を具体的に説明して頂きました。昼食後、再度グループに分かれて一症例のディスカッションを行いました。

ディスカッションの最後に、参加した卒後1年目の先生は「教科書で習ったことと実際の臨床を結びつけることができた。自分の診断、治療と実際の流れに差があった。こういう機会を得られてよかった」と感想を述べていました。この症例は高橋潤一先生が卒後1年目のときのケースでした。20年前の症例を昨日の事



のように話せるのもしっかりしたデータがあるからなのだと感じました。午後最後の講演は藤関先生から「臨床観察から学ぶこと」という演題で講演がありました。記録を残し検討をすることにより気づくことがある。記録の蓄積が臨床成績のアップにつながるということをつかりやすく説明していただきました。

このような素晴らしい講習をスムーズに行うために、何度も会議を行い準備してきた学術委員の先生方は大変なご苦労があったようでした。学術委員会の先生方のご努力には頭が下がります。この卒後研修を受講した新卒の先生方がこれから活躍されるのが楽しみになる講習でした。（取材・広報部 西村哲雄）



# 保 険

## 平成 24 年診療報酬改定の注意点

平成 24 年診療報酬改定が行われ 1 か月が経ちました。

今回の改定における注意すべき点をいくつか挙げてみました。再度、ご確認ください。

- 1. 歯科診療特別対応加算【特】・歯科診療特別対応地域支援加算【特地】** <名称変更・新設>
  - 今回の改定において、初再診料の加算としての障害者加算が歯科診療特別対応加算と名称変更されました。また、歯科診療特別対応地域支援加算が新設されました。
  - 特地は、歯科診療特別対応連携加算を算定している地域歯科診療支援病院等から文書提供を受けた上で紹介された場合に、初診料に 100 点を加算できます。  
なお、前改定から歯科診療特別対応加算を算定した患者さんを地域歯科診療支援病院へ紹介した場合、情報提供料へ 100 点を加算できますので算定漏れのないようご注意ください。
  - 「重度の認知症」も加算対象へと拡大されました。
- 2. 歯科疾患管理料【歯管】** <算定要件の整理・変更>
  - まず主訴(C等)の治療を優先して歯管を算定した場合、その後に歯周病検査の結果治療が開始されると「歯管全体が算定できない」という不合理な取扱いが明確に是正されました。
  - 患者の状態に大きな変化がない場合の管理報告書は、前回の管理報告書の提供日から起算してから4ヶ月(以前は3ヶ月)に1回以上提供することとなりました。
- 3. 歯科治療総合医療管理料【医管】・在宅患者歯科治療総合医療管理料【在歯管】** <適応範囲の拡大>
  - 対象疾患に、新たに骨粗鬆症(ビスフォスホネート系製剤服用患者に限る)および慢性腎臓病(腎透析を受けている患者に限る)が追加されました。
- 4. 歯周病部分的再評価検査【P部検】** <新設>
  - 検査の項目として、今回の改定から新設されました。
  - 歯周外科手術を行った部位に対して、歯周病の治癒の状態を評価することを目的として実施した場合に、手術後に1歯1回に限り 15 点を算定します。
  - 4 点以上のポケット測定とプロービング時の出血の有無が必須です。歯周精密検査と異なり、必要に応じて歯の動揺度とプラークチャートを用いたプラークの付着状況を検査します。
  - 歯周外科手術後に行う歯周病検査は、口腔内の状況に応じて歯周病部分的再評価検査又は歯周精密検査のいずれかを実施します。
  - 前回の精密検査から 1 カ月経過していれば、部分的再評価の算定の有無に関わらず、術後の精密検査は 50/100 の減算ではなく、所定点数で算定できます。
- 5. 歯科用 3 次元エックス線断層撮影【歯CT】** <新設>
  - 医科の準用であったCT撮影が歯科用 3 次元エックス線断層撮影として、新設されました。従来の歯科用エックス線撮影及びパノラマ断層撮影では診断が困難な以下の症例に認められます。
    - 埋伏智歯等、下顎管との位置関係
    - 顎関節症等、顎関節の形態

- 顎裂等、顎骨の欠損形態
- 腫瘍等、病巣の広がり
- その他、デンタル撮影又は歯科パノラマ撮影で確認できない位置関係や病巣の広がり等を確認する特段の必要性が認められる場合
- 難治性の根治等も CT 撮影は可能です。デンタル撮影等で診断ができない場合となります。

#### 6. 特殊撮影(歯科パノラマ断層撮影等)および歯CTの診断料 〈算定要件の変更〉

- 特殊撮影および歯CTの場合、一連の症状を確認するため、同一部位に対して撮影を行った場合の2枚目以降の診断料は 50/100 ではなく、100/100 で算定できます。(デンタルは今まで通り)
- CTの診断料は、月1回に限り算定できます。

#### 7. 機械的歯面清掃処置【歯清】 〈新設〉

- 歯清は加算から独立した処置になり、歯管と同日実施でなくても算定できます。
- 歯周疾患に対する処置となりますので、歯管を算定した上で P・G 病名が必要です。

#### 8. 歯周病安定期治療【SPT】 〈算定要件の整理・変更〉

- 今までは歯周外科手術実施後の場合にのみ SPT の治療間隔を短縮することができました。
- 今回の改定から全身疾患やハイリスクの患者に対しても治療間隔を短縮できるようになりました。
- 医師からの文書が必要となりますが、全身疾患の状態により、歯周病の病状に大きな影響を与える場合や歯周外科手術が実施できない場合に SPT の治療期間を短縮できます。
- 侵襲性歯周病(若年性歯周炎または早期発症型歯周炎)も SPT の治療期間を短縮できます。なお、医師からの文書は必要ありません。ただし、侵襲性歯周病の罹患率は 0.05~0.1%と云われており至極希なケースですのでご注意ください。

#### 9. 咬合調整 〈算定要件の整理・変更〉

- 下記の①から④の場合、同一初診期間中それぞれ1回に限り算定できることに変更されました。
  - ① 歯周炎又は歯ぎしりの処置のために、歯の削合を行った場合
  - ② 過重圧を受ける歯の切縁、咬頭の過高部又は別の歯科の保険医療機関において製作された金属歯冠修復物等の過高部の削除を行った場合
  - ③ 咬合緊密である患者の義歯を製作するに当たり、鉤歯と鉤歯の対合歯をレスト製作のために削除した場合
  - ④ 歯周組織に咬合性外傷を起こしているとき、過高部の削除に止まらず、食物の流れを改善し歯周組織への為害作用を極力阻止するため歯冠形態の修正を行った場合、又は舌、頬粘膜の咬傷を起こすような場合に、歯冠形態修正(単なる歯削合を除く。)を行った場合

#### 10. 残根削合 〈新設(算定方法の変更)〉

- 残根削合は、抜歯禁忌症で新製義歯製作の必要上やむを得ず残根歯の削合のみを行う場合に、18点を歯数に応じて算定します。

11. 歯冠修復のコンビネーション

＜充形の増点＞

- インレーと充填のコンビネーションについては、主たるもので算定することとなっています。
- 今回、充形の点数が増点しましたので、充形が主たるものの場合点数が異なりますのでご注意ください。

12. 接着ブリッジ

＜適応範囲の拡大＞

- 臼歯部の1歯欠損に対する接着ブリッジも認められるようになりました。
- 支台歯のうち少なくとも1歯が生活歯であり切削をエナメル質にとどめ、接着性レジンセメントを用いて接着ブリッジ支台歯に接着冠を装着した場合に算定できます。
- 支台歯が両方とも臼歯であっても、支台歯の1歯が生活歯であれば算定可能です。
- 歯冠形成は前歯のレジン前装金属冠の形成と同じ796点になります。
- 臼歯部の接着ブリッジ支台歯の鑄造歯冠修復は4/5冠により算定します。

13. 装着料の統一

＜点数の整理＞

- ジャケット冠やCRインレー等の装着料の点数が30点から45点へと統一されました。
- 同様にメタルコア等の再装着料も45点となります。算定の際は、ご注意ください。

14. 広範囲顎骨支持型補綴

＜新設＞

- 広範囲顎骨支持型補綴は、当直体制が整備されている病院であることが、算定要件となっています。ただし、歯科診療所でも、算定できる項目として広範囲顎骨支持型補綴物修理 1200点と他の保険医療機関で埋入した広範囲顎骨支持型装置を撤去した場合があります。
- 広範囲顎骨支持型補綴物修理を行なった場合は、レセプトの摘要欄に装着を実施した医療機関名（自院は除く）及び装着日（不明であれば装着時期）を記載します。
- 広範囲顎骨支持型装置を撤去した場合は歯科インプラント摘出術で算定します。

15. 未来院請求における取扱いの是正

＜算定要件の整理＞

- アクチバートル式の床副子以外でも未来院請求が算定可能となりました。
- アクチバートル式以外の床副子には、以下のものがあります。
  - ◆ 顎間固定用に歯科用ベースプレートを用いた床
  - ◆ 斜面板
  - ◆ 咬合挙上副子
  - ◆ 出血創の保護と圧迫止血を目的としてレジン等で製作した床
  - ◆ 手術にあたり製作したサージカルガイドプレート
  - ◆ 咬合床副子
  - ◆ 舌接触補助床
  - ◆ 乳幼児の顎骨骨折に対してナイトガードとして口腔内に装着するマウスピース
  - ◆ 固定用金属線による囲繞結紮に用いたレジン等で製作した床副子
  - ◆ 歯ぎしりに対する咬合床
  - ◆ 睡眠時無呼吸症候群の治療法としての咬合床
- 義歯の仮床試適前に未来院となった場合は試適予定日、装着できない理由を記載します。

16. 歯科訪問診療料【訪問診療】

＜算定要件の整理・変更＞

- 歯科訪問診療料1が850点に増点されました。

- 「常時寝たきり」の文言が削除され、歯科訪問診療の対象を在宅等において療養を行っており、疾病、傷病のため通院による歯科治療が困難な患者と是正されました。
- 20分ルールの一部例外規定がもうけられました。  
治療中に患者の容体が急変し、医師の診察を要する場合等やむを得ず治療を中止した場合、診療した時間が20分未満であっても歯科訪問診療料を算定することができます。  
この場合、急変後の対応の要点をカルテ及びレセプトの摘要欄へご記載下さい。

17. 在宅患者等急性歯科疾患対応加算【急性対応】

＜算定要件の整理・変更＞

- 必要な器具を携行した場合、一人の患者に対して「1回目」と「2回目以降」で異なる評価が一本化されて統一され、対象人数による区分けへと変更されました。
- 介護保険も同様の取扱いとなりますが、歯科医師が居宅療養管理指導を行った場合にはケアマネジャーへの情報提供が必須となりました。

	医療保険	介護保険
		歯科医師・歯科衛生士
同一建物居住者以外(建物内の居住者1人のみ)	170点	500単位・350単位
同一建物居住者(建物内の居住者複数)		450単位・300単位
	同一日5人以下	85点
	同一日6人以上	50点

18. 歯科訪問診療補助加算【訪補助】

＜新設＞

- 在宅療養支援歯科診療所に属する歯科衛生士が、歯科医師と同行の上、歯科訪問診療の補助を行った場合は、歯科訪問診療補助加算として、1日につき所定点数に加算します。
- 診療録に診療の補助を行った歯科衛生士の氏名を記載します。
- 訪問診療料の算定がない場合は算定出来ません。

同一建物居住者以外の場合	110点
同一建物居住者の場合	45点

19. 後発医薬品の処方せん料一般名加算

＜新設＞

- 後発品のある医薬品について、一般的名称に剤形及び含量を付加した記載(一般名処方)により処方せんを交付した場合、処方せんの交付1回につき2点を加算できます。なお、レセプト請求時には全体の「その他」欄に記載して下さい。
- 複数の薬剤を処方する場合、1つでも一般名処方があれば算定できます。
- 一般名処方を行った場合の処方せん料の算定においては、「薬剤料における所定単位当たりの薬価」の計算は、当該規格のうち最も薬価が低いものを用いて計算します。
- 個々の処方薬について後発医薬品への変更には差し支えがあると判断した場合には、処方せんの「変更不可」欄に[✓]又は[×]を記載し、「保険医署名」欄に署名または記名・押印が必要です。



後発医薬品がある、代表的な歯科適応抗菌薬(内用薬)

分類	先発製品名	成分名	剤形	規格	同一剤形規格内最低薬価	一般名処方での記載例
ペニシリン系	サワシリンパセトシン	アモキシシリン水和物	カプセル	125mg	6.90	【般】アモキシシリン カプセル125mg
				250mg	8.60	【般】アモキシシリン カプセル250mg
			細粒	100mg 1g	6.20	【般】アモキシシリン細粒10%
				200mg 1g	7.60	【般】アモキシシリン細粒20%
セフェム系	ケフラール	セファクロル	カプセル	250mg	21.20	【般】セファクロル カプセル250mg
				100mg 1g	10.50	【般】セファクロル 細粒10%
			細粒	200mg 1g	19.80	【般】セファクロル 細粒20%
				ケフレックス	セファレキシン	錠
	カプセル	125mg	28.00			
		250mg	11.20			【般】セファレキシン カプセル250mg
	細粒	100mg 1g	9.00			【般】セファレキシン細粒10%
		200mg 1g	11.90			【般】セファレキシン細粒20%
	500mg 1g	22.90	【般】セファレキシン細粒50%			
	ドライシロップ	100mg 1g	9.00	【般】セファレキシン シロップ用10%		
		200mg 1g	11.90	【般】セファレキシン シロップ用20%		
	500mg 1g	22.20	【般】セファレキシン シロップ用50%			
	バナン	セフボドキシムプロキセチル	錠	100mg	37.50	【般】セフボドキシムプロキセチル錠100mg
				50mg 1g	39.70	【般】セフボドキシムプロキセチルシロップ用5%
ドライシロップ			100mg 1g	94.20	【般】セフボドキシムプロキセチルシロップ用5%	
			100mg	40.50	【般】セフボドキシムプロキセチル錠100mg	
メイアクト	セフジトレンピボキシル	錠	100mg	40.50	【般】セフジトレンピボキシル錠100mg	
			50mg	21.60	【般】セフジトレンピボキシル錠50mg	
		ドライシロップ	100mg 1g	51.30	【般】セフジトレンピボキシルシロップ用10%	
			150mg	26.90	【般】セフジトレンピボキシル錠150mg	
マクロライド系	クラリス	クラリスロマイシン	錠	50mg	21.60	【般】クラリスロマイシン錠50mg
				200mg	36.20	【般】クラリスロマイシン錠200mg
			ドライシロップ	100mg 1g	51.30	【般】クラリスロマイシンシロップ用10%
	ルリッド	ロキシシロマイシン	錠	150mg	26.90	【般】ロキシシロマイシン錠150mg
テトラサイクリン系	ミノマイシン	ミノサイクリン塩酸塩	錠	50mg	14.90	【般】ミノサイクリン塩酸塩錠50mg
				100mg	25.10	【般】ミノサイクリン塩酸塩錠100mg
			細粒	20mg 1g	10.40	【般】ミノサイクリン塩酸塩細粒2%
				100mg	16.00	【般】オフロキサシン錠100mg
ニューキノロン系	タリビッド	オフロキサシン	錠	100mg	16.00	【般】オフロキサシン錠100mg

後発医薬品がある、代表的な歯科適応解熱鎮痛消炎薬(内用薬)

分類	先発製品名	成分名	剤形	規格	同一剤形規格内最低薬価	一般名処方での記載例
アニリン系	ピリナジン(後カロナール)	アセトアミノフェン	錠	200mg	5.60	【般】アセトアミノフェン錠200mg
				20% 1g	6.20	【般】アセトアミノフェン細粒20%
			ドライシロップ	20% 1g	10.30	【般】アセトアミノフェン細粒50%
				40% 1g	10.10	【般】アセトアミノフェン シロップ用20%
			シロップ	2% 1mL	12.70	【般】アセトアミノフェン シロップ用20%
4.60	【般】アセトアミノフェン シロップ2% 1ml					
アントラニル酸系	ボンタール	メフェナム酸	カプセル	250mg	5.40	【般】メフェナム酸 カプセル250mg
アリール酢酸系	インドメタシン	インドメタシン	カプセル	25mg	8.60	【般】インドメタシン カプセル25mg
				37.5mg	12.20	【般】インドメタシン カプセル37.5mg
	ボルタレン	ジクロフェナクナトリウム	錠	25mg	5.60	【般】ジクロフェナクナトリウム錠25mg
37.5mg	7.60	【般】ジクロフェナクナトリウム錠37.5mg				
プロピオン酸系	ブルフェン	イブプロフェン	錠	100mg	5.00	【般】イブプロフェン錠100mg
				200mg	6.60	【般】イブプロフェン錠200mg
			細粒	20% 1g	6.20	【般】イブプロフェン細粒20%
	フロベン	フルルビプロフェン	錠	40mg	6.10	【般】フルルビプロフェン錠40mg
	スルガム	チアプロフェン酸	錠	100mg	5.60	【般】チアプロフェン酸錠100mg
				200mg	9.20	【般】チアプロフェン酸錠200mg
	ニフラン	プラノプロフェン	錠	75mg	7.50	【般】プラノプロフェン錠40mg
				シロップ	1.5% 1mL	6.40
ロキシニン	ロキソプロフェンナトリウム水和物	錠	10% 1g	10.60	【般】ロキソプロフェンNa細粒10%	
			60mg	5.60	【般】ロキソプロフェンNa錠60mg	
ソレトン、ペオン	ザルトプロフェン	錠	80mg	9.60	【般】ザルトプロフェン錠80mg	
塩基系	ペントイル	エモルファゾン	錠	100mg	6.20	【般】エモルファゾン錠100mg
				200mg	8.90	【般】エモルファゾン錠200mg

# 母校だより

## 第117回 卒業証書授与式



平成24年3月16日(金)午前10時から、千葉校舎講堂に於いて第117回卒業証書授与式が行われた。式のはじめに恒例の混声合唱部による校歌斉唱があり、司会の佐藤 亨学生部長の開式の辞に続き、参列者一同の「君が代」の斉唱で開式された。

続いて柳澤孝彰副学長から「現在、本学に在籍する学生は827名であり、本日卒業証書を授与される者はその内の128名、大学設置以来の卒業生を合わせると8,475名、専門学校設置以来の卒業生を合わせると14,488名で、高山歯科医学院創立以来の通算卒業生数は14,779名になる」旨の学事報告の後、河田英司教務部長の呼名により卒業生一人一人が起立し、井出吉信学長から卒業証書が授与された。舞台脇には大型スクリーンが設置されており、卒業生の表情が会場に流され、各自の緊張の面持ちから笑顔まで、手に取るように分かるように配慮されていた。続く褒賞の授与では、学長賞、血脇賞、井上 裕賞、精勤賞、卒業論文賞が授与された(受賞者は文末に記載)。

続いて井出学長は告示で、「皆さんが入学された平成18年には臨床研修制度がスタートした年であり、以来6年を経て本学3病院の臨床研修プログラムも充実し、これから1年間の臨床研修中に本学で学んだ知識と技術、さらには6年間で培った医療現場でのコミュニケーション能力をさらに磨き上げ、国民に信頼される歯科医師を目指してほしい」と述べられた上で、「東日本大震災から1年が過ぎ、被災地では多くの歯科医師が尽力され、歯科医師の重要性が再認識されるとともに、避難生活者の健康状態を維持する上で口腔ケアや歯科治療の重要性も再認識された。すでに超高齢化社会を迎えた我が国では、口腔ケアや摂食嚥下機能の維持改善、在宅での歯科治療など、歯科医師の役割はますます多岐の分野にわたっている。本学は創立120年の記念事業としての水道橋への移転がすすめられており、本年4月にはさいかち坂校舎を開校し、皆さんの後輩達が水道橋校舎で学ぶようになり、新たな東京歯科大学がスタートする。これからも本学同窓と

して母校の発展を温かく見守ってほしい」と述べられた。

続いての祝辞で金子 讓理事長は、「皆さんはこれから研修医となるが、この研修医は未熟な知識技量を実際に役立たされるための準備期間と思われがちだが、大学からすれば雇用者である。すでに学ばされてきたという感覚は今日を持って卒業し、これからは自分で学ぶのだという気構えを持ってほしい。自ら学ぶということはまず興味があるということが一番。研修医の期間にこそ、その学ぶ本質を身に付けてほしい。「1日の計は朝にあり、1年の計は春にあり、1生の計は少壮の時にあり」という言葉があるが、この計をたてることが大切であり、その計は自分の好きなことが力を発揮するので、この1年間に良く考え大学院への進学も含めてこれからの人生を考えてほしい」と述べられた。

続いて矢崎秀昭同窓会長は、「今日の日本は大震災、原発事故、少子高齢化社会の到来など、長年にわたる社会の構造的な「ひずみ」が現実のものとなり、未曾有の国家的危機

に直面している。さらに歯科界においても歯科大学の一時期の急激な増加などにより、人口に対する歯科医師の受給バランスの崩壊など、一般社会からも歯科界の厳しさが指摘されている。しかし寿命がいくら長くなっても、人間らしく心身ともに健康に過ごせなければ長寿社会の本来の意味がない。これから皆さんが天職として取り組もうとしている歯科医師の仕事は、人々の生きる力と健康を支える素晴らしい職業である。120年の本学発展の足取りは、日本の歯科医療の歴史そのものである。本学同窓の先輩方は、幾多の困難を乗り越り今日を築いていた。卒業生

### 受賞者一覧

学長賞：根木沙枝子

血脇賞：石川宗理、池田朋子、佐藤彩乃、岩脇清一

井上裕賞：池田朋子

精励賞：根木沙枝子、高橋真緒、玉手秀典、小田嶋 秀、佐藤涼一、  
鳩貝 翔、古山 遼、佐藤彩乃、田村朋果、三島倫太郎、  
中山総一郎

卒業論文賞：久保宗平、川上良明、伊藤泰隆、渡邊美貴、堀米裕美、  
池田朋子、金 亨俊、小川 真

の皆さんも同窓生意思を引き継ぎ、日本を代表する歯科医師となることを願っている」と祝辞を述べられた。

続いて在校生を代表して木村基善

君（5年生）から送辞、卒業生を代表して根木沙枝子さんから答辞が述べられた後、出席者全員で校歌を斉唱し、厳粛かつ感動的な卒業証書授与式が閉会となった。

## 平成24年度 母校入学式



平成24年4月5日(木)、陽春の穏やかな日差しが心地よい午後1時より、千葉校舎講堂において平成24年度東京歯科大学入学式が行われた。佐藤 亨学生部長の司会進行のもと、まず管弦楽部の生演奏の伴奏で国歌「君が代」と校歌の斉唱が晴れやかに行われた後、河田英司教務部長が新入生一人一人の紹介を行った。その後、まず井出吉信学長から以下のような訓示があった。

「1890年明治23年の創立以来120年

を超えた本学は、これまで培った確かな実績のもとに最先端の教育、研究、診療を行っている。常に我が国の歯科医療を牽引しながら新しい知識と技術を学生に教育し、最新の医療を提供することで国民から信頼される歯科医学教育機関として社会的使命を実践している。本学の確かな教育力は、これまでの高い国家試験合格率に示されており、この2月の結果でも全国29大学のトップに輝いた。しかし、本学の教育の特徴は建

学の精神である初代校長血脇守之助先生が説いた「歯科医師たる前に人間たれ」に則り歯科医師としての知識や技術だけでなく、社会性を身に付け、人間的に優れた歯科医療人を育成するというにある。また、グローバル化が急速に進む中、国際的な感覚を身に付けた歯科医師を育てるべく、在学中から国際視野を養うためのプログラムの一環として、昨年度から各学年の成績優秀者が海外の姉妹校で短期研修を行う「エレ

クティブスタディ研修制度」をスタートさせた。このような海外研修は皆さんの学生生活をさらに充実させたものになると思うので、是非がんばっていただきたい。

東京歯科大学は創立120周年の記念事業として千葉校舎から水道橋校舎への大学中枢機能の移転を進めている、また水道橋一帯は古くから文教地域として大学や研究施設文化施設等が集まっており、多くの交流や情報に触れることができる場所である。こうしたロケーションが皆さんの学びの拠点となる。本学はこれまで高山歯科医学院の伊皿子から東京歯科医学専門学校の神田小川町、そして神田三崎町から千葉市へとキャンパスを移転し、その機会ごとに大きく発展してきた。4月にさいかち坂校舎が開校し、水道橋キャンパスを中心にさらなる飛躍を目指して新たな東京歯科大学がスタートする。さいかち坂校舎の最初の学年となる皆さんは、東京歯科大学の新たな1ページを作る大切な主役である。これから始まる6年間は人生の中で最も輝いた大切な時なので、ぜひ充実

した学生生活を過ごしていただきたい。我々教職員は一丸となって皆さんを単なる歯科医師としてではなく、日本あるいは世界をリードする歯科医師に育て上げることを約束する。ぜひ皆さんもこれに応えていただき保護者の方々にもご協力をお願いしたい」

続いて金子 譲理事長から「皆さんは今日ここに入ってきたが、全員が第一志望だったわけではないだろうと思う。大事なことはこの大学の方針に沿って、6年間でこの大学を好きになってほしいということだ。また、皆さんは今はまだ自己を確立しているとは言えないが、卒業する時には自己を確立するようになってほしい。つまり自分はどうかあるべきかということがわかって実行できる人になってほしい。「歯科医師たる前に人間たれ」とは言うものの、どういう風になったらいいか今はわからないかもしれない。一般にはまず「知」「徳」「体」を以ってして社会に貢献する人間たり得ることである。医療を行う上で人間性ということが大切であるというこ

と。「よく学びよく遊べ」ということにつきると思う。しかしどうやって学んでいったらいいかということとは皆さんが各自でよく考えていただきたい。それを6年間やっていただければ、立派な東京歯科大学卒業生となるだろう。そういう意味で「井上裕賞」というのがある。この賞は井上先生の御略歴を見ても分かるように、歯科医師として活躍した訳ではなく政治家として活躍された、つまり歯学の枠から出た方のお名前の賞を作っているということ。このことは将来多面的に大いに活躍をしてもらいたいということから設けている賞である。国試の合格率は良いが、決してそれだけをやっている大学ではないということをぜひ知っておいてほしい。将来この大学を背負って立つのは皆さんなので、ぜひ頑張っ

てほしい」旨の祝辞があった。続いて新入生を代表して神坂雪乃さんが宣誓を行った後、学長より徽章が授与され、再び校歌を斉唱して、緊張感のある華やかな入学式が閉じられた。

## 平成24年度 新入生名簿

相磯友里	岩城珠璃	戒田直紀	栗原幸	佐原早彩
朝倉みな実	上野琴美	香川瑠理	小島健太郎	椎貝誠
阿南康太	江澤奈穂	桂川和弥	小林奈菜美	椎津友香理
阿部江美子	大澤三枝	加藤孝実	小林美穂	品川翔太
阿部太樹	太田慧	上川床俊彦	齋藤周崇	篠田茉央
有田康孝	大谷研人	河野孝斉	齋藤博愛	島津幸平
在原瑛	大坪周平	川村勇太	齋藤礼	島村唯
安真奈	岡崎寛弥	神坂雪乃	柴田仁美	清水貴裕
家崎憲博	岡本雄紀	北村一磨	坂田望	清水美里
市川江里佳	冲津卓哉	京極崇	佐藤智友紀	鋤柄信也
伊藤礁	荻野早紀	草野日花里	佐藤邑樹	鈴木眞由
井畑有紀子	越智奈々美	熊本亜津沙	澤裕一郎	鈴木勇多郎

鈴木 峻平	辻 優人	野中 彩加	松井 友里	山崎 絢女
洲之内 善一	常 泉健太	野村 周平	松浦 望未	山崎 雅恵
千代 侑香	津谷 尚樹	林 優希	松浦 信孝	大和 彩香
曾根 嘉人	富山 千裕	原 さやか	松永 健	山本 裕義
竹盛 光洋	伴野 圭太	原 将人	松元 秀樹	山本 悠太
田島 美穂	豊田 智章	原 瑞紗	真鍋 優	湯澤 眞生
田中 絢子	中野 岳志	原 裕太郎	水田 陽子	吉田 明史
田中 斉	中村 章裕	原崎 ひとみ	三橋 俊介	吉田 佳奈
田中 優衣	中村 咲帆	原田 愛聖	宮吉 美仁	吉田 裕太郎
田中 佑磨	中谷 脩子	東 えりか	森井 雅子	若松 万紗
谷本 采香	鳴澤 葵	秀島 能	森田 愛里	和田 大岳
玉木 大和	二階堂 純彦	古庄 孝史	柳川 萌	渡 邊 圭亮
田村 友彦	西尾 紘輝	古田 洋平	山川 允仁	
千葉 弘貴	根本 悠平	牧田 恭右	山口 剛史	

## 平成24年度 第2学年編入 (5名)

小澤 範宏      野中 一穂      藤 関 聡子      松尾 充洋      渡辺 真衣

## 平成24年度 東京歯科大学 入試ガイダンス日程

	開催日時 (予定)	場 所	内 容
1	7月8日 (日) 13時～15時	東京歯科大学 本館校舎13階 (水道橋キャンパス)	大学紹介, 入試概要説明, 入試科目ポイントの説明, 模擬授業, 個別相談等
2	7月28日 (土) 14時～16時	東京歯科大学 本館校舎13階 (水道橋キャンパス)	大学紹介, 入試概要説明, 入試科目ポイントの説明, 模擬授業, 個別相談等
3	8月25日 (土) 13時～15時	東京歯科大学 本館校舎13階 (水道橋キャンパス)	大学紹介, 入試概要説明, 入試科目ポイントの説明, 模擬授業, 個別相談等
4	9月30日 (日) 13時～15時	東京歯科大学 本館校舎13階 (水道橋キャンパス)	大学紹介, 入試概要説明, 入試科目ポイントの説明, 模擬授業, 個別相談等
5	12月15日 (土) 14時～16時	東京歯科大学 本館校舎13階 (水道橋キャンパス)	大学紹介, 入試概要説明, 入試科目ポイントの説明, 模擬授業, 個別相談等

※ 内容, 開催時間等, 変更になることがありますので, 事前にお問い合わせください。

問合せ先: 東京歯科大学 教務課 (千葉校舎) TEL: 043-270-3733

URL: <http://www.tdc.ac.jp>

# 東京歯科大学 創立120周年記念事業

## 東京歯科大学 井出学長との座談会

日 時：平成24年4月19日

場 所：水道橋校舎5階 役員室

出席者：

井出吉信 東京歯科大学学長  
矢崎秀昭 東京歯科大学同窓会会長  
宮地建夫 東京歯科大学同窓会副会長  
佐瀬俊之 東京歯科大学同窓会副会長  
高野博子 東京歯科大学同窓会常任理事  
臼田 準 東京歯科大学同窓会広報部・  
広報委員会委員長



**臼田委員長** 学長との座談会は4年目を迎えますが、その間、創立120周年記念事業として記念式典を挙行し、更に水道橋移転が「さいかち坂校舎」の竣工を初めとして順調に進められてきています。大学をとりまく環境も大きく変化している中、本日は井出学長並びに同窓会の新会長である矢崎会長、宮地副会長、佐瀬副会長を交えて、和やかに（座談会を）進めていきたいと思えます。私、同窓会広報部・広報委員会の委員長で昭和53年卒の臼田と申します。司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いしたいと思います。

**矢崎会長** 井出学長先生、今日は本当にお忙しいところをありがとうございます。まず移転のほうは順調に進んでいるということで、「さいかち坂校舎」をはじめ、水道橋病院の改築も順調に進み、また、水道橋病院への患者さんも、病院の改築に合わせて増加しているとのこと、我々としては大変嬉しく思っております。さらに、今年春の国家試験（合

格率）が国立大学を抜いてトップになったということで、お祝い申し上げます。そこで、先生に移転の進捗状況、そして国家試験の事などをお話しいただき、話を進めていきたいと思えます。よろしくお願い申し上げます。



**井出学長** 本日、同窓会の先生方にこのような会を設けていただいたことは、大学としても非常にありがたいと思っています。日ごろの大学の活動を、ぜひ同窓の先生方に理解していただければ幸いです。

只今、会長からお話をいただいた国家試験の件ですが、今年は本当に学生がよく頑張っており、良い成績がとれたということは非常にありがたい、大変嬉しく思っております。



『険しかった国家試験合格率トップへの道のり』

**井出学長** 国家試験の高い合格率が得られることは、大学教育の総合力なのです。学生も教員も職員も一体となって成しうる事です。実は十数年前に、国家試験対策の予備校に行きたいという学生が出てきたのです。予備校に行くとは、何事だと怒った先生もいました。しかし、これは学生が教員・大学を信頼できないということで、その時東京歯科大学の国家試験の成績は私立大学の中でも半分以下に落ちてしまっていたのです。それでは学生が言うのも当然だと思ひまして、そこから教育改革が始まったわけです。

**佐瀬副会長** 今回の国家試験の結果は非常に誇らしいといえますか、同窓として胸を張っているような次第ですけれども、この国家試験の成績の裏には、非常なご努力があったのです。学年主任、副主任の役割が大切になると思います。



**井出学長** 自分たちが勉強する、同級生を教える、できる人ができない人を教える。今年はそういう雰囲気が非常に良かったと思います。このような雰囲気をつくり上げてきたのが、学年主任、副主任の先生方をはじめ多くの教員の力だと思います。成績上位の学生が「みんなで卒業して、みんなで受かろう」という気持ちで、他の学生の面倒を非常に良く見てくれる。そのチームづくりを学年主任、副主任が良くやっておりました。それから、教務課がデータ処理を非常にきちんと行っていました。うち（東京歯科大学）は教員と職員が一体となってチームになっています。このような総合力が良い結果をもたらしたと思っております。これは職員が大変一生懸命で教員と苦楽を共にするからです。ですから、国家試験の合格率が良いと、教職員も事務職員も共に心から喜ぶことができます。この事は他の学校からも注目されております。

#### 『教員への意識改革』

**宮地副会長** 昨年は合格率が81.4%と下がりましたが、今年は98%と高くなっています。いろいろ具体的に

数字につながることをやってきたのでしょね。



**井出学長** 実は、教員の助教と講師に国家試験問題を受けさせ、講座主任と本人に点数を全部返したのです。国家試験では学生がどういう問題を受けているかということを知ってほしいと思ひまして。これはもちろん教員には非常に評判が悪かったです。しかし、そうすることで、教員も一生懸命取り組みました。ですから、どのような国家試験問題が出たかという傾向を教員の全員が把握しましたので、それからは毎週のように対策を練るようになりました。

**矢崎会長** 既卒者の合格率もよかったですね。

**井出学長** 今回、良かったことがもう一つありまして、既卒者が24人受験して22人受かったということがすごいことなのです。既卒者の24人のうち、受かった方は、予備校には行かず、みんな大学で面倒を見ていたので、6年生と一緒に勉強させることができたのです。落ちた瞬間、大学に来なくなりがちですが、今は大学をすごく信頼してくれていますので、卒業したとしても大学に来るのです。そこで、6年生の学年主任に7年目も、既卒者の学年主任を継続的に毎年お願いしております。

**白田委員長** 卒業した人もきちんと面倒を見るということですね。細かい配慮と緻密な計算、そして、かなり前からそういったところを目指して体制をとり、地道に基本的なとこ

ろをきちんと押さえてきたことがわかりました。

#### 『卒業して新同窓会員へ』

**佐瀬副会長** 学生にも先生にも、皆で助け合っていくという精神が植えつけられている。それはすごく東京歯科大学らしさを感じるところです。これから新卒者がさらに我々同窓会との関係の中でも非常に良い関係というか、大学を信頼し、新しい同窓になって、また大学の面倒を見ていくような関係ができ上がれば良いかと思うのです。

**井出学長** それは本当にそう思います。今は学生が非常に大学を信頼しており、同窓の先生方も大学を信頼し、卒業後も後輩のためにバックアップしていただければ一番ありがたいです。

**宮地副会長** 今回、新執行部ができて、大きな目標として、若手同窓との連携と大学との連携という、二つの大きな柱を出しました。今、若い人の組織離れというのが社会でもあって、昔、我々は、卒業して同窓会に入るとか歯科医師会に入るということは当たり前だというふうに思っていたので、若い人に「入りなさいよ」という押しつけ、入らなきゃだめだよというようなことしか伝えていなかったと思うのですけれども、「あなた方にとってこういうメリットがあるのだよ」ということをもう少し我々が十分に伝えておけば良かったと反省しております。これから学生にも同窓会の組織とか歯科医師会の組織は非常に大切なんだということを、いろいろなチャンスのときに話をしていかなければならないと思っています。

**井出学長** 現実には学生は、日々の勉強などで精一杯ですので、同窓会のことはほとんど頭の中にないわけです。その為には、同窓と大学との繋

がりを目に見えた形で、何かを見せてあげない限り、無理だと思いません。移転に際しても東京には多くの優秀な同窓の先生がいらっしゃいますので、同窓の先生方の診療室で、是非臨床教育をお手伝いしたいと思えます。そこで治療をすることは、もちろん法的にできませんが、やはりきちんとした患者さんに対する態度教育や、あるいは技工のラボの整理の仕方でも、伝票の書き方一つでも、5年生の段階で教えていただければ非常に有難く思います。

では、その下の学年はというと、エレクトイブスタディ (Elective Study) として夏休みに短期海外研修を行っているのですが、昨年からの費用の一部を同窓会にご援助して頂いております。そこで今年は、クラスごとに、会長か副会長に來校して戴き、直接学生みんなの前で「研修費ですよ」と渡していただくと良いかなと思っております。

#### 『女性会員への期待』

**矢崎会長** 今回、若手のネットワークをつくるということで、今年度から若手ネットワーク委員会というものをつくりまして、高野先生に、本当に久しぶりというか、初めて女性の常任理事になっていただきました。

**井出学長** 東京歯科大学は他校に比べて女性が少ないほうだったのですが、昨年の新入生は半数が女子学生でした、高野先生が女性の先生として理事になられたということは、大学にとっても大変良いことですね。

**佐瀬副会長** そうですね。同窓会もそうでしょうけど、女性の会員が増えているということで、女性特有の考え方や見方が必要になってきます。女性の立場を尊重しながら、会をつくっていかねばいけないと思えます。

**高野理事** 仕事上問題なのは、育児だったり、子育てだったりという理由が一番多いのです。結婚して仕事をしますかと聞いたら、100%が「する」と言うのです。ところが、出産後、どうですかと聞くと、「不安」というのが出てきます。その辺の支援というのは今後、大学もしなければいけないし、歯科医師会も同窓会もしなければいけないと思えます。女性も皆さん仕事をしたいと思っていますし、その場が欲しいと言います。



**矢崎会長** さらに大きな課題として、若い人の同窓会離れがあります。各支部に入会せず、同窓会の会費も払わない、そして歯科医師会にも入らなくなってきました。学生時代から、準会員の様な形で同窓会との繋がりが出来たらと思えます。

**井出学長** 準会員として同窓会入会させるのは良い事だと思いますが、会費を取ることはないようお願いいたします。今大学では、ご父兄に対する学費の負担を少しでも減らそうかと思っておりますので宜しくお願いします。

我々の年齢になると、歯科医師会は大切ですよ、とか同窓会は大切ですよという、組織の大切さというのがわかるわけです。学生ときには、同窓会が何たるかも分からないし、同窓会はこういう役目をしていきますよと言ってもわからない。大学としては歯科医師会の役目のほうがまだ説明しやすいわけです。なぜかという、歯科医師会の組織がしっ

かりしていないと医療行政等の交渉や話し合いが出来ませんよと卒業まじかの学生や研修医に話をしております。

**佐瀬副会長** 同窓会の意味も若い人に説明しなければなりませんね。

**井出学長** 同窓会に入る一番の意味は何ですかと聞かれたときに、先生は何と答えているのですか。

**高野理事** 私が今日 (こんにち) までやってきた中で、同窓会のネットワークに入ったことで、本当にありがたかったなと思っております。歯科医師会もそうだと思うのですが、学会などに行きましても、東京歯科大学のネットワークというのがあるからこそ、いろいろな意味で助かったことが多くあります。それは別にしまして、若い人は、研修医が終わるころに、次の就活にすごく困っているのですよね。120年の歴史がある同窓会というのはやはりありがたいと私は思うのです。かわいそうな道をたどっている子たちもいるし、就活で本当に困っている子たちがいっぱいいるので、同窓会というものをしっかりそうした活動ができる状況をつくることは、大切なと思えます。

**井出学長** 就活以外にも、本音のところは、やはり同窓会がしっかりしていないといけないと思うところが多くありますね。

#### 『さいかち坂の新しい校舎』

**臼田委員長** 話を新しくできた「さいかち坂校舎」に移しましょう。さいかち坂の校舎を見てきて、非常にきれいにでき上がっていました。中から2人の学生が出てきましたが、非常に都会らしい学生でした。その辺も違うのかなと思えます。そこで井出学長に、新入生を迎えたさいかち坂校舎についていろいろとお聞きしたいと思います。今年



入った1年生はどうですか。



**井出学長** やはり千葉校舎とは少し雰囲気違いますね。

**宮地副会長** 最近、挨拶もしっかりして、起立、礼をきちんとやるときいています。

**井出学長** そうです。挨拶することが当たり前というふうにしたいわけです。患者さんに対する態度教育、コミュニケーション能力の向上等の教育に力を入れたいと思います。その一環として、1年生からきちんと規律正しく、君たちは医療人たる自覚を持つという教育を今、始めているところです。

**矢崎会長** 学生生活の話ですが、学生生活では、クラブ活動が大きなウエイトを占めていると思いますが、当分の間は先輩後輩などの連携が難しいのではと思うのですが、いかがでしょうか。

**井出学長** そうですね。そこは今一番の悩みどころで、周辺のビルを使用すれば文化部の活動に関してはそれほど困らないかなと思っています。運動部に関しては、しばらくの間は千葉の施設を使用するつもりですが、移転が完了する三年後を目途に水道橋の近郊の利用出来るスポーツ施設を今探しており、幾つか施設は借りられそうになっております。

#### 『同窓会とのつながり』

**臼田委員長** ここで大学、とくに同窓会との関係で今後についてお話を伺っていきます。

**井出学長** 大学を卒業した方々の生

涯教育の場として、大学と同窓を繋げる事が同窓会としての大きな役割だと思います。卒業した学生が学校へ戻ってきて、もう一回、最新歯科医療を勉強する。同窓の先生方が学生教育に参加する。教育を受けた学生も、教育をした人も、5年後、10年後、15年後、何回でも、大学に戻ってくる。その循環を作っていくという事が、同窓会の発展と大学の発展につながると思います。

**矢崎会長** 先生がおっしゃった、生涯教育の場として同窓会があるというのは非常に素晴らしい考え方だと思います。それを通して大学との関係も密となり、さらに同窓会と会員とのより密接な関係が構築されてくると思います。

**臼田委員長** 今後、同窓会、同窓が必要ということで、我々同窓も大学が必要ということで、お互いに協力していきたいという結論に到達しますね。最後に、水道橋移転に対して目玉となる血脇記念ホールですが、それについての今後の我々同窓の現実面での募金ということに関して、矢崎会長から一言お願いします。

**矢崎会長** 長い歴史を誇る東京歯科

大学の一つの象徴としての血脇記念ホールを、何とか同窓の皆さまのお力を結集して建設出来る事を心から願っております。しかしながら現状に置きましては大変厳しい状況です。一人でも多くの同窓の皆様のご協力をお願い申し上げますとともに、役員一同、会員のご理解を得られるよう全力を尽くす決意をしております。

**臼田委員長** 今後は、生涯研修にかかわる大学との強いコネクションができるというような意味で、付加価値ができたと思うのです。寄附は、今まではどちらかというと、建物や設備に対してお金を払うという認識のほうが強かった。そうではなくて、血脇記念ホールだけではなく、そのほかの価値として、大学とのコネクション、あるいは研修が受けられる、身近に大学を感じられるというような意味をもつものであり、少し認識が変わってきました。今後そういう説明をしながら、立派な血脇記念ホールができるように、募金の協力を、広報活動を通して強く進めていきたいと感じました。

本日はありがとうございました。



# 支部のうごき

## 掲示板

\*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日時	演題及び講師 又は事業内容	会場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成24年 7月7日(土)	未定  矢崎秀昭先生 (東京都開業)	千明仁泉亭 渋川市伊香保町45 TEL 0279-72-3355	群馬県支部 連絡先 担当・原 茂 TEL 0274-22-0079	支部会員
学術講演会 平成24年 7月8日(日) 午後2時～5時	原因不明の歯痛・顔面痛をどう診断 するか  井川雅子先生 (静岡市立清水病院口腔外科)	アバホテル名古屋錦 4階会議室「鈴鹿」 名古屋市中区錦 3-15-30	愛知県支部 連絡先 担当・久野昌士 TEL 0569-43-1124	歯科関係
学術講演会 平成24年 7月13日(金) 午後7時30分～	再生療法にフォーカスした歯周外科 について  齋藤 淳教授 (東歯大歯周病学講座)	浅草歯科医師会事務所 台東区浅草1-4-7 勉強堂ビル4階 TEL 03-3841-5154	浅草支部 連絡先 担当・田 昌文 TEL 03-3874-4565	支部会員 同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成24年 7月18日(水) 午後6時30分～	歯牙の再生について(仮)  辻 孝先生 (東京理科大学教授)	東京都歯科医師会附属 歯科衛生士専門学校3階 千代田区多町2-11 TEL 03-3252-8221	千代田支部 連絡先 担当・山本雅通 TEL 03-3252-0624	歯科関係
学術講演会 平成24年 7月23日(月) 午後8時～	未定  佐藤 亨教授 (東歯大クラウンブリッジ 補綴学講座)	練馬区歯科医師会館	練馬支部 連絡先 担当・野坂祐介 TEL 03-3929-6480	支部会員 同窓会員
学術講演会 平成24年 8月18日(土)	未定  末石研二教授 (東歯大歯科矯正学講座)	宮崎県歯科医師会館 (予定) 宮崎市清水1-12-2	宮崎県支部 連絡先 担当・専務理事 今井弘治 TEL 0985-28-5577	支部会員 同窓会員
学術講演会 平成24年 10月17日(水) 午後6時30分～	歯周療法学における再生療法(仮)  齋藤 淳教授 (東歯大歯周病学講座)	東京都歯科医師会附属 歯科衛生士専門学校3階 千代田区多町2-11 TEL 03-3252-8221	千代田支部 連絡先 担当・山本雅通 TEL 03-3252-0624	歯科関係
保険講習会 平成24年 11月10日(土) 午後6時30分～	歯科診療報酬請求への対応  森岡俊介先生 (東京都開業)	ウィリング横浜ゆめおお おかオフィスタワー121・ 122号室 横浜市港南区上大岡西 1-6-1	横浜南部支部 連絡先 担当・渡邊宇一 TEL 045-842-0233	同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成24年 11月23日 (金・祝)	開業医が持ち合わせておくべき口腔 癌の知識とその診査方法(仮)  片倉 朗教授 (東歯大オーラルメディスン 口腔外科学講座)	ウイステイン都ホテル 京都市東区三条蹴上	近畿地域支部連合会 連絡先 担当・河野多聞 TEL 075-982-3200	連合会会員

## 青森県支部

### 総会および学術講演会

平成24年度同窓会の定時総会及び学術講演会が3月3日(土)午後3時からホテル青森に於いて開催されました。来賓として同窓会より副会長の浮地文夫先生、県歯会長の山口勝弘先生、大学より歯周病学講座教授の齋藤 淳先生をお迎えいたしました。

総会は小林敏彦常任理事の司会で始まり、松山支部長の挨拶、浮地副会長から新執行部の考え方、同窓会会務状況、大学創立120周年記念事業の同窓の募金受付状況等のお話がありました。県歯の山口会長から

県歯の事業等について、また齋藤先生からは大学の近況等についてのお話をいただきました。議長には住吉辰郎先生を選出し、逝去された富士孝裕先生、嶋中豊彦先生、清藤隆平先生に黙祷を捧げました。続いて平成23年度の報告として佐藤甚弥先生が旭日双光章を受章されたこと、昨年の東北地域支部連合会の報告、さらに東日本大震災の見舞金等の報告がありました。議事に入り第1号議案から第4号議案まですべて承認可決されました。

学術講演会は歯周病学講座主任教授齋藤先生より「歯周組織再生療法

の基礎と臨床」と題して講演をいただきました。特に今回は歯周外科治療の基本的事項を再確認するとともに現在、臨床で行える歯周組織再生療法の考え方について大変くわしくお話をいただきました。記念写真撮影後、支部顧問の高畑研佑先生の乾杯のもとに懇親会を開宴しました。終始なごやかな雰囲気の中で学生時代の思い出話を花を咲かせ会員相互の親睦を強くはかり、最後に恒例の校歌を斉唱し無事終了いたしました。(本田富彦 記)



## 群馬県支部

### 平成23年度定時総会

平成23年度群馬県同窓会定時総会が、平成23年3月10日(土)午後4時より前橋市のアニバサリーコート・ラシーネに於いて開催されました。来賓として、同窓で群馬県歯科医師会会長の村山利之先生をお迎えしました。真下泰彦副会長の開会の辞に続き、平成23年7月の定時総会以降にご逝去された室橋和夫先生と吉田勇先生に黙祷を捧げました。次に、清見能久同窓会会長より挨拶が行われ、総会における慎重審議、同窓会本部の執行部交代についてお話がありました。次に、顧問の武安一嘉先生より挨拶が行われ、東日本大震

災からの復興元年で多くの方々ががんばっていることや、消費税増税と保険の点数改正についてのお話をいただきました。次に、来賓の群馬県歯科医師会会長の村山利之先生により挨拶が行われ、群馬県歯科医師会の会務の執行に対する同窓会員の支援と協力について感謝の言葉を述べられました。次に、庶務報告が行われました。続いて、総会議長に山口保男先生が選出され、議事として、平成24年度事業計画案の承認を求める件、平成24年度一般会計および福祉共済部会計予算案の承認を求める件が提出され、可決承認されました。次に、議事のその他として、

清見会長より同窓会本部改革や本学の近況について報告がありました。また、群馬県同窓会においては、総会への代理人出席の承認を検討中であることや、未入会者対策への協力をお願いするお話がありました。そして、引田正俊副会長より閉会の辞で総会は無事終了しました。

引き続き、記念撮影を行い、川越文雄先生の乾杯のもとに懇親会を開宴しました。終始なごやかな雰囲気の中でお互いの親睦を深め合い、矢内融先生より東京歯科大学の発展を祈念する言葉をいただきお開きとなりました。(三丸 潔 記)



## 埼玉県支部



### 新年会開催

平成24年2月5日(日)、浦和ワシントンホテルにおいて埼玉県支部新年会が開催されました。23年末で旧役員と交替し、新執行部が取り仕切る最初の行事となりました。副支部長高橋章雄先生の開会の辞にて幕が開き、春山良夫先生から支部長就任の挨拶と抱負を、特に若い世代の会員参加を熱望されていました。来賓の同窓会会長矢崎秀昭先生には最近の同窓会の動向を、今回はご臨席叶わなかった井出学長の代行として田崎雅和教授からは大学の水道橋移転、入試、国家試験の状況についてご説明いただきました。また、同窓会名誉会長大山萬夫先生、埼玉県歯



科医師会副会長の小杉国武先生には会長代行としてご挨拶をいただきました。

続いて、嶋田幸一先生叙勲のお祝いが代理でご子息の嶋田雅夫先生に渡されました。埼玉県出身である井出吉信先生の学長就任のお祝いが奥様の井出良子先生に、さらに井出良子先生ご自身も厚生労働大臣表彰(歯科保健事業功労)を受賞された報告がなされ、二重の喜びとなりました。

祝宴に移り、同窓会本部の常任理事に就任された副支部長海野智先生の挨拶、前支部長の成田賢二先生の乾杯で開宴となりました。平成9年卒の春山親弘先生、14年卒の



大久保宏治先生が新入会員として紹介され、ご挨拶いただきました。美味しいお酒とすばらしい料理で楽しく歓談した後、毎年恒例のビンゴゲーム大会に変わり、今回は大井誠一幹事長自らプログラミングした抽選ソフトによる大抽選会を行いました。皆さん、豪華なお土産を目論見、大いに盛り上がりました。さらにお酒も進み、年代の垣根を越えた会員相互の交流を楽しみましたが、そろそろ時間となり、校歌斉唱、記念撮影の後、副支部長橘田博純先生の閉会の辞にて名残惜しくもお開きとなりました。(山崎真司 記)



## 横浜西部支部

### 平成24年度総会・懇親会

平成24年4月14日(土)に、泉区、栄区が幹事となり横浜高島屋キハチにおいて、総会が開催された。来賓として、加藤木 健神奈川県支部連合同窓会前会長、高橋 庸神奈川県支部連合同窓会副会長をお迎えして行われた。

午後7時より、本間雅之君の司会で総会が開かれた。開催に当たり、佐藤信之支部長により挨拶がなされた。続いて、加藤木先生、高橋先生より挨拶がなされた。その後、辻村育郎君より会員現況と会務についての報告がなされた。続いて水口浩司君より会計報告、高階皓三君より監査報告がなされた後、杉山紀子神奈川県連合同窓会会長より本部同窓会報告、高階光博君より連合同窓会報告がなされた。

総会終了後、佐藤卓朗君の乾杯の



発声により宴に入った。宴の途中、相庭昇一君、佐々木正矩君の傘寿、高階皓三君、植村 桂君の喜寿、佐々木靖治君の古希、辻村育郎君の還暦が祝われた。

宴は話が尽きず大変な盛り上がりを見せ、あっという間に時間が過ぎてしまい、最後は皆で記念写真を撮り、終了となった。(渡瀬秀彦 記)



## 愛知県支部

### 平成24年第1回役員会

2月4日(日)午後4時30分より、愛知県同窓会第1回役員会が名古屋サミットホテルにて開催されました。前会長の山田 有先生から新会長の成瀬 健先生に引き継がれて、最初の会合ということでほぼ全員が参加し、平成卒の先生が半数近く顔をそろえ、大変若々しい新執行部という印象をもちました。橋本雅範専務理事の司会進行のもと、杉浦正人副会長の開会の辞にて幕を開け、成瀬 健会長より「本来の基本的な会務を滞りなく執行してゆくのはもちろんであるが、東京歯科大学同窓会ここにあり、という誇りを持って臨んでいきたい」と力強い挨拶をいただきました。

続いて、各担当常任理事より今年度事業計画について報告があり、通常の次第進行の後、今年度の新しい催しとして、例年の学術講演会の開催はもちろんのこと、それ以外に若

愛知県支部役員名簿	
会 長	成瀬 健 (昭和50年卒)
副 会 長	杉浦 正人 (昭和50年卒)
	辻川 雅介 (昭和51年卒)
専務理事	橋本 雅範 (昭和53年卒)
常任理事	
(渉 外)	中川 重樹 (昭和52年卒)
	山口 堅三 (昭和52年卒)
	鈴木 祥夫 (昭和55年卒)
(庶 務)	日比 浩樹 (昭和60年卒)
	長谷部雅志 (昭和56年卒)
(会 計)	西村 臣史 (昭和56年卒)
	鈴木 正彦 (昭和61年卒)
(学 術)	久野 昌士 (昭和57年卒)
(厚 生)	湯口 富保 (昭和63年卒)
(共 済)	平野 義雄 (昭和60年卒)
(広 報)	竹内 英樹 (昭和59年卒)
理 事	
(渉 外)	伊藤 博之 (昭和55年卒)
	澤 政樹 (平成元年卒)
(庶 務)	小関 健司 (平成2年卒)
(会 計)	静間祐一郎 (平成7年卒)
(学 術)	丹羽 克誌 (平成4年卒)
	穂積 隆浩 (平成11年卒)
	酒井 聡 (平成13年卒)
(厚 生)	井上 貴詞 (平成12年卒)
(共 済)	白岩 克規 (平成2年卒)
	鈴木 裕仁 (平成2年卒)
(広 報)	井上 敬介 (平成9年卒)
監 事	
	夫馬 真也 (昭和44年卒)
	山田 有 (昭和46年卒)
	河野 幸彦 (昭和51年卒)

い先生向けの学術セミナーの開催及び若い先生が情報交換できるよう、交流の場を設けるため前期発足した若手会の充実、発展並びに問題が山積している歯科界でどのように対処

したらよいか提言できるように医療問題講演会の開催等について協議しました。上記に平成24・25年愛知県同窓会役員を紹介します。

(竹内英樹 記)



## 三重県支部

### 定時総会の報告

2月19日同窓会三重県支部定時総会を、四日市歯科医師会館にて開催いたしました。同窓会より梅村長生同窓会副会長、学術講演に市川総合病院口腔がんセンターの佐藤一道先生にお越しいただきました。

梅村先生による同窓会本部報告では、同窓会への未加入者が若い卒業生ほど多くなっている現状とその解決方法の提案、同窓会の改革、東日本大震災への対応支援などをお話いただきました。後の懇親会で梅村先生がお話しされた、水道橋移転に伴う問題と共に、大学・同窓会が直面する困難な状況を改めて認識することとなりました。

その後例年通り23年庶務報告、23年決算報告、会計監査、24年事業計



画、24年予算などが報告、提案され承認をいただきました。

今年には稲森新一郎先生、稲森康二郎先生のお二人が入会されました。久々の新入会であり三重県支部としては非常に喜ばしいことです。

休憩をはさんで、佐藤一道先生が「口腔がん検診の光と影 千葉県市川市での活動から」と題して1時間半の講演をされました。口腔がんの早期発見の大切さ、集団検診の意義



と問題点、市川市口腔がん早期発見システムと液状細胞診、鑑別症例など多岐にわたり熱くお話をさせていただきました。

その後四日市都ホテル「四川」に場所を移して懇親会を行いました。参加者全員が和気あいあいと歓談し、大変有意義なひと時を過ごすことができました。（宮崎弘隆 記）





## 滋賀県支部

### 総会および学術講演会開催

平成23年度東京歯科大学同窓会滋賀県支部総会および学術講演会が、さる平成24年2月5日(日)、ホテルポストプラザ草津にて開催された。当日は冬晴れの天気であり、総勢26名の参加があった。中村 忠専務理事が司会を担当、立木 健副支部長の開会の辞に続いて校歌を斉唱、物故会員に対する黙祷を行なった。現北村支部長が挨拶を述べられ、続いて近畿連合評議員会の報告があった。その後、議事に入り平成23年度の事業報告および会計報告がなされ、引き続き平成24年度の事業計画の協議を行い承認された。また、続く議事において、次期支部長選出を現執行部一任とする案を賛成多数で可決した。会員から次期支部長には現行の北村真也支部長留任の意見も出されていた。さらに現状の当会繰越金の一部から、水道橋移転が進む東京歯科大学本学への寄付を拠出してはどうかとの執行部からの提案があり、会員間で活発な意見交換がなされ今こそ本学のために役に立つ時であるとの結論に達し最終的に東京歯科大学同窓会滋賀県支部として100万円の寄付を行うことを全

員賛成で可決した。藤居正博副支部長による閉会の辞で総会は締めくくられた。休憩を挟んだ後、本学よりお招きした東京歯科大学学長井出吉信教授による本学移転の現状説明と、学生教育の過程の説明が行われた。国家試験の難題化と少子化による有望学生の減少、業界自体の将来展望の暗さから学生離れが全国的に顕著になり各歯科大学の生存競争が激化している事、各大学ともその方策は様々であるが将来を見つめつつも余力がある内に積極的な手を矢継ぎ早に打っていかないと伝統校といえども予断は許さないなど、なかなか大学の外からはわからない現状を詳しく説明いただいた。大学、国家経済、歯科医院経営、いずれも規模は違っても厳しい現状にあることを再認識した。引き続き、井出学長のご専門である解剖学の学術講演会が実施された。今回は摂食、嚥下のメカニズムを知るというテーマで短い時間ながら凝縮してご教示いただいた。咀嚼・嚥下システムに関与する筋肉とその神経支配、また麻痺があったり加齢によったりでこのシステムがうまく作用しなくなった場合の問題点と診断基準、そしてその対

策についてお話いただいた。日々の臨床で寝たきりや在宅医療に携わる手前、最低限の解剖学的知識は必要であり誤嚥性肺炎による高い死亡率をコントロールするための歯科医師の役割の重要性を強調された。井出学長の講演は自分が学生時代に受けた解剖学の講義と何ら変わらぬ軽妙でかつポイントをきちんと押さえた素晴らしいもので日々の診療でつい忘れがちな解剖学的な物の見方とその機能、それぞれがどのような機能を担っているか、という基礎の重要性を今一度見直すきっかけとなったと思う。時間が押してしまっていたが活発な質疑応答が交わされ、講演会は終了となり引き続き懇親会に移った。藤居正太郎先生の乾杯の発声で宴が始まり、東京歯科大学逍遙歌「夕日は沈み」をBGMに和やかな時とともに同窓の親睦を深めたのち、尾松素樹理事の閉会の辞をもって全ての日程を終了した。東京歯科大学のよき伝統である、年齢を超えた結束力の強さはまだまだ健在であると実感した一日であった。

(住井浩剛 記)



## 広島県支部

### 総会・学術講演会

平成24年定時総会が1月22日(日)にホテルグランヴィア広島で開催された。今年は東呉会(呉地区)の当番で、池田敦治先生の総会司会で、県支部総会が開催された。総会開催に先立ち、高木勇藏支部長の挨拶があり、現在県歯会へ役員数などで、参加協力の影響が以前に比較して薄くなりつつある。役員数を誇るのではなく、伝統のある東京歯科大学の同窓としての貢献を提案され、その一例として、女性歯科医が増えつつあり、女性の観点で現行保険制度を見つめてもらうために我が同窓の女性陣に健闘をお願いしたい。その意味で昭和と平成をそれぞれ冠に何年卒と出自を表現していたが、今年117期もの卒業生を迎えるに当たり、卒業期で表現することで、共通の伝統校の一員としての認識がさらに強まり、若い先生とロートルの間に何か生まれる可能性があるかと卒業期でIDを表現しようと強調された。

さらに同窓会支部の創立70周年記念の式典が平成7年(1995年)7月

1日に行われ、その資料が見つかり記念事業の規模そして予算面についての記録を「県支部誌」に掲載する予定であることを紹介し、3年後に90周年を迎えるが、平成37年には100周年を迎えるに当たり、心積もりをするように呼びかけられた。

その後、東呉会柏村 真会長が議長に選ばれ、本部評議員会報告に続いて、昨年3名の新入会員を迎え、現在129名の会員数になったことなど庶務報告の後に議事に入った。「平成23年の一般会計歳入歳出及び特別会計決算報告」と「平成24年事業計画案」さらに「平成24年一般会計予算案」が承認され、次年度総会開催地は福山地区そして東福会の当番で行われることに決定した。

続いて協議に入り、母校の水道橋移転事業に、平成8年に定期預金している500万円の基金と今月会員一人2万円を県歯会で引き去り、目標金額740万円を寄贈することが支部長より説明があり、了承を得た。

次いで谷 信吾理事を座長に、東京歯科大学歯科放射線学講座佐野

司教授をお迎えし「歯科臨床での画像をあらためて見直すーデンタル・パノラマそしてCBCT画像ー」の講演があった。

講演の前に水道橋移転の進捗状況や今後の展望そして大学の入学者応募状況そして国家試験の合格率の変遷と今後の努力目標が説明され、本題に入った。デンタル写真とパノラマ写真の読影のポイント。CBCTで何が見えるかまたどの様に利用できるか?その特徴は。そしてインプラントの画像診断で大事なポイントは?などの詳しいご講演をいただき、福島原発の影響で、過敏になっている、放射線の影響についての対応の説明で2時間の講演は終わった。

その後記念写真撮影をし、懇親会に移った。林 克宏副支部長の挨拶に続き、中村 博顧問の乾杯の発声で宴は始まった。

1年に1回の同窓同士の歓談はアツと言う間に経過し、恒例の輪になっての校歌斉唱の後、野間 博副支部長の閉会の挨拶で散会した。

(高木尚美 記)



## 大分県支部

### 平成23年度総会および学術講演会

東京歯科大学同窓会大分県支部平成23年度総会が平成24年4月21日大分オアシスタワーホテルにて開催されました。吉武 勝副支部長の開会の辞に続き、吉澤健介支部長より挨拶を頂きました。会務報告ではこの一年で亡くなられた4名の先生方に黙祷を捧げ、新入会の川上和久先生のご紹介をしました。その後吉澤支部長より九州地域同窓会・支部長会ならびに本部評議員会についての報告があり、続いて会計報告、監査報告があり、平成23年度の会計決算の承認を行い、平成24年度の会費徴収方法の承認を行いました。最後に、来年度より吉武 勝先生に支部長になっていただく事を出席者全員で承認し総会を終了しました。

学術講演は解剖学講座主任教授の阿部伸一先生に「臨床に役立つ機能解剖」と題してお話していただきました。最初に「インプラントオペ、

外科小手術の危険回避に関するポイント」についてお話になり、歯牙喪失後の顎骨の変化により神経血管等の位置が有歯顎の場合とどう変化するのかを解説していただきました。続いて「総義歯製作の勘所および高齢者の咀嚼・嚥下機能」についてというお話では、高齢者の嚥下機能を理解し嚥下機能を取り入れた義歯の作成がなぜ重要なのか、義歯の吸着における機能解剖学の理解の重要性について解説していただきました。

阿部先生からは昔懐かしい解剖学の空欄の付いたハンドアウトを頂き骨・神経血管の変化や筋肉、顎関節の作用、動きについて動画等を使って非常にわかりやすくお話いただき会員の先生方にも大変好評でした。最後に、最近の東歯大の様子についてお話いただき講演会は終了しました。

記念撮影の後、場所を都町にあります「ふく亭本店」に移し懇親会を



行いました。吉武副支部長の乾杯の音頭で始まった懇親会はすぐに和気あいあいとした雰囲気となり、シーズンも終盤となったふぐに舌鼓を打ちながら、ビール、日本酒、ひれ酒とお酒もみなさん進み、お店の方からも“皆さん仲がよろしいですね”などと言われているうちに、楽しい時間はすぐ過ぎてしまうもので、あっという間にお開きの時間となってしまいました。外はあいにくの雨模様でしたが、十数名の先生方は二次会にも参加され、今年の総会・懇親会も無事終えることができました。(小野 聡 記)



# クラス会だより

## 踏 志 会

昭和41年卒

### 第107回踏志会東京支部会

踏志会の皆様、お変わりありませんか。久し振りに踏志会東京支部会の様子をお伝えいたします。

早いもので、107回を数えました。2、5、8、11月と、年4回のペースで27年目を迎えました。

安藤君の尽力で、神奈川支部会と合同で開催したり、奥方同伴の会もと、フランス、日本、中華料理……etc. 「グルメの会」などを設け、家族共々の親交を深めています。今回は、2月27日(月)、青木君のお世話で、神楽坂の酒齋庵〈まろうど〉で開催。

午後7時少し前から、出席予定のクラスメートが三々五々姿を現し、先ずは“やあやあ。元気か!”との声掛け。久し振りの笠井君の元気な顔も見え、早速、互いの近況報告。

定刻午後7時を少し回ったところで、支部会長柴山君の“始めようか。最初に、1月に急逝した山口

英男君の冥福を祈ろう”との言葉で一同静粛に、しばらく黙祷。議事に入り、踏志会会長上竹君から、大学・同窓会関連の報告。続けて、今秋の第47回踏志会総会(三重県:担当幹事武藤章美君)について、本部、支部会とも出来るだけバックアップしようとの提案があり、一同賛成。次回、次々回総会の予定に話題が進んだ頃、出席予定でなかった朝浪君が姿を見せる。“大学の会議が中止になったので来られた”とのこと。“いよっ!第50回踏志会総会担当幹事登場!”と誰かの声、“任せておけ!”と朝浪君。その後、特に緊急議題もなく会議は終了、懇親会へ。

柴山君が“では乾杯を……”と、今度は1期先輩の臼井久雄先生がみえました。お住まいがすぐ近くとのこと、“柴山先輩(?)に会えるから、図々しくも顔を出しました”。一同、拍手で歓迎。全員元気よく“カ

ンパーイ!!”。

美味しい鍋料理とお酒を友に、インプラントの話(朝浪君)で始まり、趣味の野球(とは言え今も野球部現役連中と試合をするという門屋君)、專業(?)森林インストラクターの話(笠井君)、ゴルフ(黒田君)、SL写真家(?)の撮影秘話(野村昌君)、ペットのワンちゃん自慢(柴山君)、そして学生時代の懐かしいお話(臼井先生)、などなど。ちょっと淋しいですが、各自の健康問題も真剣な話題に。クラスメートの懇親は限りなく続きます。

10時半過ぎ、柴山君の“そろそろこの辺で”との声で、さすがカメラマン、野村昌君が一同を手際よく整列させ、構図を決め、シャッターはお店の御主人にお願いして記念撮影。5月の再会を約してお開きとなりました。(臼田威記)



# 紫雲会

平成4年卒



我々紫雲会は卒後20年となります。そこで、節目の年を記念し、3年ぶりに皆で集まることになりました。不定期に、幹事の都合で開催されるこの紫雲会ですが、少しでも一緒に勉強したことがある仲間や、家族も Welcome! という会です。

今回は秋も深まってきた11月19日、汐留の、中国飯店 チョウムライ 潮夢来にて開催されました。当日は低気圧の影響で激しい風雨でしたが、全国から60名を超える仲間が集まりました。副主任だった櫻井 薫先生 (有床義歯補綴学講座)、保坂 誠先生

(千葉県立保健医療大学)、早川吉彦先生 (北見工業大学) においても、お忙しい中ご出席いただきました。

会に先立ち、宮城県の秋元君より、東北地方太平洋沖大地震の後、同窓会を通じて沢山の義捐金、支援物資に対して、丁寧な御礼の挨拶がありました。仲間の菊池君 (宮城県) や大内君 (福島県) らも大変な被害を被ったが今は無事であることを聞きました。

続いて学年代表の羽賀君から開会の挨拶、そして前回から今日までに亡くなった田中慎一郎君、村上雅紀

君、佐藤るりさんに対して黙祷を捧げました。

櫻井教授からのご挨拶では「20年も経つと、みんな俺と見た目が変わらないくらい貫禄がついたなあ」と、お褒めの言葉? を頂きました。早川先生、保坂先生からもご挨拶を頂き、乾杯となりました。

鹿児島の下津君から、幻の焼酎「村尾」の差し入れがあり、北京ダックや黒酢の酢豚など料理も美味しく楽しいひとときを過ごしました。稲毛キャンパスでの学生時代の話に花が咲く一方、子育てのことだけでなく、自分の病気や両親の介護も話題となり、40代半ばという年齢を感じずにはいられませんでした。途中、「20年も経つと、薄くなったたり、大きくなったりで、誰だか分からない人がいる。どうして名札を用意していないの?」と、自分のことを棚に上げた美魔女様達よりクレームを頂きましたが、はい<sup>※2</sup>と笑顔で誤魔化しつつ、楽しいひとときは、あっという間に過ぎていきました。

さて、次回の幹事は、D班班長だった宮崎君にお願いして、中締めとなりました。

尚、Facebook にて、バーチャル紫雲会を毎日開催中です。

<http://www.facebook.com/jn1takahashi> (高橋潤一 記)



# 燦 和 会

平成10年卒

平成10年に卒業してから実に15年もの歳月が流れた本年2月11日、ホテルメトロポリタンエドモントにて卒業後初めての同窓会が開催されました（15年間1度も同窓会を開催しない学年も珍しい）。当日は70数名の参加でしたが、皆そのほとんどが卒業式以来の再会となりました。社会に対して何の責任もなかった学生時代から、気がつけば40歳という年齢がもうすぐそこまできている。家庭や仕事、社会に対して大きな変化が各人で動いていたであろう、短いようで長い15年であったのではない

だろうか。当日は開宴に先だち、昨年の東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼在住の佐藤 晶君の挨拶から始まりました。震災直後の惨状や今だ復興には程遠い現地状況の話など、彼の地元気仙沼に対する大きな誇りと愛着を学生時代から聞いていただけに、その心中察するに余る内容でした。

開宴後はそれぞれ時間はあつという間に過ぎていき、学年主任であられた一色泰成先生、副主任の斉藤力先生のお話や、現在も大学に在籍する古澤成博先生からは大学の現状

などの話を聞くことができました。皆がそれぞれ話に夢中になりすぎて開始1時間が過ぎても誰もほとんど料理に手をつけないような状態で、途中マイクアナウンスで料理を食べるよう指示したほどでした。

15年間同窓会を開催しなかった学年なので、次回第2回の開催も10年後くらいになるのでしょうか？さすがにその頃は外見も風貌も皆大きく変わってしまう再会となるだろう。今と変わらぬ我が母校、東京歯科大学の発展がその時間ければ幸いです。（内山博人 記）



## クラス会開催日程

黎明会（昭和57年卒）

とき 平成24年11月3日（土・祝）15：00～

ところ 東京 ホテルグランドパレス

新葉会（昭和63年卒）

とき 平成24年7月28日（土）17：30～

ところ 東京ドームホテル 42階ベガサス

# OB会・グループ・サークルだより

## 第43回歯学体優勝祝賀会を開催して バレーボール部・友萌会



2011年11月6日(日)「銀座ファーストファイブガーデン」にて、第43回全国歯科学学生総合体育大会での男子優勝・男女総合優勝ならびに男子・春季関東医歯薬リーグ1部優勝祝賀会が、バレーボール部OBで結成された友萌会主催のもと現役部員を招待し盛大に開催されました。

最初に友萌会会長の片桐重雄先生(昭和37年卒)、続いて部長の坂英樹先生(平成2年卒)の挨拶があり、山崎喜之先生(昭和45年卒)の乾杯の音頭により祝宴が始まりました。歓談中には、歯学体の男子決勝戦のDVD映像が会場で流れ、今大会の圧倒的な強さを目の当たりにしたOBからは、ワンプレーごとに感嘆の声が上がっていました。

歓談後、歯学体時主将・田中亜生君(当時4年)、大会MVPに輝いたエース久保宗平君(当時6年)より優勝報告が行われました。予選リーグから決勝までの7試合、1セットも落とさずタイムアウトすら取らずの完全優勝に対し、OBの先生方も驚きの色を隠せず称賛の嵐でした。続いて出席者全員から祝辞を頂き、片桐会長より現在の主将岡澤

亮平君(当時3年)にOB会からのお祝いが手渡されました。そして、恒例になりつつある?優勝カップによるビールの回し飲みが行われ、OB、現役一体となって優勝の美酒に酔いしれ、参加者一同で肩を組み校歌を熱唱し宴も最高潮を迎えましたが、時間の都合上名残惜しい中閉会となり、記念撮影を行い散会となりました。

出席者(敬称略):片桐重雄、山崎

喜之、坂本春生、野木敏久、林 好一、宇井康悦、板垣哲夫、小山 亨、沼田裕之、遠藤謙吾、藤本 卓、西間木俊光、小野瀬正浩、坂英樹、中野典昭、長崎孝司、上村智一、小川貴也、山口祐一郎、庄村隆秀、新谷真基、松村真太郎、甲田昭彦、宮本政幸、岸本敏幸、久木留宏和、米澤輝久(卒業年順)。三宅美樹、山本敬子(衛生士校卒)。

(平成17年卒 新谷明昌 記)



## 自動車部 OB 会

### 第12回「轍会」東日本大震災気仙沼ミーティング

自動車部 OB 会では、毎年会員や現役部員との親睦のため1泊2日で、現役部員数名を招待しミーティングを行っています。地方にいる会員の先生のお世話で、1泊旅行であったり、稲毛の自動車部のガレージを見学した後、近くの南千葉サーキットでの現役とOBの交流であったりと毎年いろいろな企画の下にミーティングを行っています。

今回は、東日本大震災で被害の大きかった東北地方の会員の方々、福島県喜多方市の北見千穂先生（昭和40年卒）、宮城県仙台市の千葉正胤先生（昭和44年卒）、懸田明弘先生（平成元年卒）のお見舞いと、一日も早い復興を祈念し、宮城県の鳴子温泉にて、紅葉も見ごろの平成23年11月5、6日に行われました。

参加者は最年長の白井久雄先生、前会長の大岡紀一郎先生、現会長の浦井照彦先生をはじめ15名でした。林 量一先生は例年通り茅ヶ崎から輪行で参加されました。また一番の遠方からの参加は、愛知県岡崎市の奥平紳一郎先生夫妻で、レストアになったばかりの初代スバルアルシオーネで740kmのグランドツーリングで駆けつけてくれました。

1日目の鳴子温泉での宴会では、千葉正胤先生からお見舞いのお礼の

挨拶があり、当時の状況や教訓などの貴重な体験談が披露されました。また参加者全員に当時の模様が映されたDVDが配布されました。在学中に千葉先生と同じ釜の飯を食べた先生方は、無事に再会できた事を大変喜んでいらっしゃるようで、部屋に戻ってからの、2次会も夜遅くまで続きました。例年とは異なった、「絆」を感じさせる宴会でした。

また、翌日は会員の林 量一先生と同級生の昭和48年卒の鈴木一雄先生のお世話で、気仙沼の視察を行う事が出来ました。会員の方からは、物見遊山のように、如何なものか、との意見もありました。しかし、地元の鈴木先生からぜひ見ておいたほうがいいです、との提案を頂き視察が実現しました。

気仙沼市内に入っただけには建物が特に倒壊した様子もなく普通の町のように見えたが、外路地の植木には幹はあるものの葉がなく、ことごとく枯れていたのが印象的でした。昼食でお邪魔した寿司屋の店内は何事もなかったかのように、きれいになっていましたが、壁には約1mのところには線があり、この線まで水に浸かったとご主人から説明がありました。

昼食後には、気仙沼湾に面した被



紅葉の鳴子温泉にて

害の大きかった地域に行きました。あの3月11日の夜テレビで中継されていた、赤々と火事で燃えていた地域がここなんだと、感慨新たでした。コンクリートの建物は骨格だけがかろうじて残っていましたが、それ以外のところは何もなくなっていました。この地域はいまだに電気が通じていないらしく、交差点では警察官が手信号で交通整理をしています。

前日の鳴子温泉での紅葉狩り、次の日の気仙沼での津波による惨状を見ると、自然の雄大さと厳しさを改めて感じさせられた2日間でした。

ご自身も被災したにも拘らず快くご案内して下さい、鈴木一雄先生には改めて御礼申し上げます。

被災地の早期の復興と繁栄を心よりお祈り申し上げます。

参加者氏名（順不同）

白井久雄(40年卒)、大岡紀一郎(42年卒)、浦井照彦(43年卒)、千葉正胤(44年卒)、実成 誼(45年卒)、角田正健(46年卒)、山田英夫(46年卒)、林 量一(48年卒)、奥平紳一郎(56年卒)、鈴木 潔(56年卒)、真山敦(H23年卒)、新野哲也(4年)、小野瀬佑紀(3年)、谷本雄輝(2年) 敬称略

(昭和56年卒 鈴木 潔 記)



視察前の気仙沼のすし屋にて、右から2番目鈴木一雄先生



先ほどのすし屋前とくらべ心なしか表情が



# 庶務日誌

3月

1) 理事会

3月17日(土) 第2回理事会

2) 委員会

3月1日(木) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
5日(月) 総務・厚生部厚生委員会  
7日(木) 事業推進部シンクタンク委員会  
9日(金) 広報部広報委員会  
12日(月) 事業推進部(企画会議)  
13日(火) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)  
14日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)  
16日(金) 事業推進部保険委員会  
23日(金) 渉外部渉外委員会  
23日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
26日(月) 同窓会・会務運営協議会  
26日(月) 事業推進部学術委員会(企画)  
27日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)  
27日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
28日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

3) 出張

3月3日(土) 青森県支部総会 浮地副会長出席  
学術講演会 講師・斎藤 淳教授(母校)  
9日(金) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式 宮地副会長出席  
16日(金) 第117回東京歯科大学卒業証書・学位記授与式 矢崎会長出席  
17日(土) さいかち坂校舎竣工式 矢崎会長, 他役員出席  
17日(土) 大学支部懇親会 矢崎会長, 他役員出席

4) 事業

3月8日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会懇親会  
15日(木) 新入会員オリエンテーション  
19日(月) 水道橋病院臨床研修歯科医修了者へのオリエンテーション  
21日(水) 千葉病院臨床研修歯科医修了者へのオリエンテーション

4月

1) 理事会

4月18日(水) 第2回常任理事会

2) 委員会

4月2日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
2日(月) 総務・厚生部ゴルフ大会委員会  
9日(月) 事業推進部大学連携委員会  
11日(水) 広報部広報委員会  
11日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
11日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)  
13日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
16日(月) 事業推進部(企画会議)  
18日(水) 事業推進部若手ネットワーク委員会  
21日(土) 事業推進部学術委員会(新人研修会)  
21日(土) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
23日(月) 同窓会・会務運営協議会  
23日(月) 事業推進部学術委員会(企画)  
25日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
26日(木) 事業推進部保険委員会  
26日(木) 事業推進部シンクタンク委員会  
27日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)

3) 出張

4月4日(水) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式 矢崎会長出席  
5日(木) 東京歯科大学入学式 矢崎会長出席  
7日(土) 山形県支部総会 矢崎会長出席  
学術講演会 講師・井出吉信教授(母校)  
14日(土) 横浜西部支部総会 加藤木副会長出席  
15日(日) 中国地域支部連合会総会・支部長会 梅村副会長, 高橋専務理事, 小徳理事, 原監事出席  
21日(土) 宮城県支部総会 矢崎会長出席  
学術講演会 講師・松坂賢一准教授(母校)  
21日(土) 大分県支部総会 学術講演会 講師・阿部伸一教授(母校)

4) 事業

4月22日(日) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー No.1 ベーシックセミナー(「初診の患者さんをどうみるか?」～診察と検査のPoint～)

5月

1) 理事会

5月16日(水) 第3回常任理事会

2) 委員会

5月9日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)  
 11日(金) 広報部広報委員会  
 11日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
 14日(月) 事業推進部(企画会議)  
 17日(木) 会務検討特別委員会  
 18日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
 21日(月) 事業推進部大学連携委員会  
 22日(火) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)  
 25日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
 28日(月) 同窓会・会務運営協議会  
 28日(月) 事業推進部学術委員会(企画)  
 29日(火) 事業推進部若手ネットワーク委員会  
 30日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
 30日(水) 渉外部渉外委員会  
 30日(水) 総務・厚生部厚生委員会  
 31日(木) 総務・厚生部ゴルフ大会委員会  
 31日(木) 事業推進部シンクタンク委員会

3) 出張

5月12日(土) 四国地域支部連合会総会  
 矢崎会長, 高橋専務理事, 久保田理事出席  
 学術講演会 講師・水口 清教授(母校)  
 19日(土) 秋田県支部総会 梅村副会長出席  
 学術講演会 講師・井上 孝教授(母校)  
 19日(土) 北陸地域支部連合会支部長会  
 白井常任理事, 加藤理事出席  
 26日(土) 全国歯科大学同窓・校友会学術連絡会  
 小林常任理事出席

4) 事業

5月8日(火) 大学との懇談会  
 12日(土) TDC インプラントセミナー・マスター  
 コース  
 13日(日) TDC インプラントセミナー・マスター  
 コース

5) 監査会

5月31日(木) 監査会

6月

1) 理事会

6月9日(土) 第3回理事会

2) 委員会

6月1日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
 5日(火) 事業推進部学術委員会(企画会議)  
 11日(月) 広報部広報委員会  
 11日(月) 会務検討特別委員会  
 13日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)  
 15日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
 18日(月) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)  
 20日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
 22日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)  
 25日(月) 同窓会・会務運営協議会  
 25日(月) 事業推進部学術委員会(企画)  
 26日(火) 事業推進部(保険委員会)

3) 出張

6月2日(土) 九州地域支部連合会支部長会  
 宮地副会長, 高橋専務理事出席  
 16日(土) 東北地域支部連合会総会  
 矢崎会長, 高橋専務理事, 高橋理事出席  
 16日(土) 近畿地域支部連合会支部長会  
 白田常任理事出席  
 19日(火) 渋谷支部総会 矢崎会長出席  
 21日(木) 東京地域支部連合会保険講習会  
 矢崎会長出席  
 23日(土) 福島県支部総会 矢崎会長出席  
 学術講演会 講師・山口 朗氏(東京医  
 科歯科大学大学院教授)  
 30日(土) 新潟県支部総会  
 浮地副会長, 高橋専務理事出席  
 30日(土) 信越地域支部連合会総会  
 浮地副会長, 高橋専務理事,  
 阿部理事出席

4) 事業

6月23日(土) TDC インプラントセミナー・マスター  
 コース  
 24日(日) TDC インプラントセミナー・マスター  
 コース  
 28日(木) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー  
 No.2 イブニングセミナー1 (「有病者の  
 歯科治療で何を注意すべきか」～歯科治  
 療時に医療事故を起こす前に～)

## 逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 17.9 卒	藤原 康 功 (91歳)	24. 2. 18
静岡県支部	〒432-8013 浜松市中区広沢2-25-19	
●昭 19.9 卒	吉田 勇 (88歳)	24. 2. 9
群馬県支部	〒370-0837 高崎市下横町24	
●昭 22 卒	井上 篤 (88歳)	24. 3. 3
福岡県支部	〒840-0012 佐賀市北川副町光法1477-13 江頭歯科医院 江頭健三様方	
●昭 33 卒	川口 晃 司 (77歳)	24. 2. 25
広島県支部	〒739-0401 廿日市市福面3-1-11	
●昭 37 卒	荻沼 善 也 (74歳)	24. 2. 28
蒲田支部	〒166-0003 杉並区高円寺南1-21-15	
●平 15 卒	松村 泰 樹 (33歳)	24. 2. 29
●昭 63 卒	小船井 尚 子 (48歳)	24. 3. 3
新潟県支部	〒940-0071 長岡市表町2-1-4-1402	
●昭 34 卒	宇野澤 璋 (77歳)	24. 3. 2
千葉県支部	〒272-0825 市川市須和田2-1-4	
●昭 23 卒	佐藤 勝 也 (85歳)	24. 2. 28
武蔵野支部		
●昭 25 卒	石井 安 敏 (85歳)	24. 3. 5
西多摩支部	〒198-0084 青梅市住江町49-12	
●昭 42 卒	増田 憲 司 (69歳)	24. 3. 8
埼玉県支部	〒348-0052 羽生市東6-3-9	
●昭 19.9 卒	水河 照 (90歳)	24. 3. 9
岡山県支部	〒700-0023 岡山市駅前町1-10-7	
●昭 41 卒	佐藤 邦 典 (70歳)	24. 3. 11
旭川支部	〒070-0035 旭川市5条通10-936 朝日プラザ5条通り913	
●昭 32 卒	奥村 巖 (80歳)	24. 3. 18
埼玉県支部	〒361-0077 行田市忍2-4-22	
●昭 22 卒	千葉 崇 亮 (90歳)	24. 3. 3
川崎支部	〒215-0011 川崎市麻生区百合丘1-18-10	
●昭 19.9 卒	生田 政 明 (89歳)	24. 3. 22
埼玉県支部	〒365-0038 鴻巣市本町7-2-30	
●昭 42 卒	高垣 順 吉 (71歳)	24. 3. 26
新潟県支部	〒945-0066 柏崎市西本町1-11-8	
●昭 16 卒	田中 進 (93歳)	24. 3. 28
埼玉県支部	〒365-0038 鴻巣市本町5-6-40	
●昭 16 卒	大久保 義 勝 (92歳)	24. 3. 28
大分県支部	〒879-0606 豊後高田市玉津393-1	
●昭 16 卒	紀陸 一 夫 (92歳)	24. 3. 30
埼玉県支部	〒365-0038 鴻巣市本町3-9-27	
●昭 29 卒	小林 昭 雄 (83歳)	24. 2. 1
秋田県支部	〒016-0822 能代市東町4-4	

●推 薦	石 塚 旬 子 (82歳)	24. 1. 28
千葉県支部	〒260-0854 千葉市中央区長洲1-31-2	
●昭 22 卒	大 村 春 夫 (89歳)	24. 3. 24
静岡県支部	〒431-3113 浜松市東区大瀬町1347	
●昭 17.9 卒	小 林 哲 郎 (93歳)	24. 3. 31
三重県支部	〒515-0083 松阪市中町1903-2	
●昭 15 卒	野 呂 璋 明 (94歳)	24. 4. 6
四谷牛込支部	〒162-0852 新宿区南榎町57	
●昭 19.9 卒	沼 田 丈 治 (90歳)	24. 2. 22
広島県支部	〒731-0138 広島市安佐南区祇園1-32-8 沼田小児科医院	
●昭 26 卒	武 部 喜 平 (86歳)	24. 4. 6
玉川支部	〒158-0083 世田谷区奥沢7-14-1	
●昭 26 卒	布 施 正 夫 (82歳)	24. 4. 14
神奈川相北支部	〒229-0102 相模原市相模湖町与瀬本町45	
●昭 25 卒	松 本 新一郎 (88歳)	24. 4. 16
苫小牧支部	〒053-0021 苫小牧市若草町5-7-2	
●推 薦 会 員	山 口 富二雄 (75歳)	24. 4. 18
鳥取県支部	〒683-0811 米子市錦町3-90-8	
●昭 40 卒	菰 田 豊 (78歳)	24. 4. 24
愛知県支部	〒453-0811 名古屋市中村区太閤通6-99	
●昭 19.9 卒	山 崎 智 (88歳)	24. 4. 27
世田谷支部	〒155-0031 世田谷区北沢1-21-6	
●昭 36 卒	松 本 茂 男 (85歳)	24. 4. 29
丸の内支部	〒329-3153 那須塩原市大原間404-8	
●昭 20.9 卒	正 木 光 児 (87歳)	24. 5. 2
群馬県支部	〒370-3347 高崎市中室田町2254 新生の園401	
●昭 33 卒	植 松 英 臣 (78歳)	22. 7. 8
四谷牛込支部	〒113-0023 文京区向丘1-20-6-1204	
●昭 50 卒	小 林 朗 男 (62歳)	24. 5. 8
北多摩支部	〒182-0022 調布市国領町1-44-1-706	
●昭 16 卒	山 下 達 郎 (93歳)	24. 5. 6
函館支部	〒040-0011 函館市本町7-1	
●昭 18.9 卒	佐 藤 正 士 (90歳)	24. 5. 14
神奈川西湘支部	〒254-0062 平塚市富士見町5-27	
●昭 44 卒	竹 田 進 (70歳)	24. 5. 13
島根県支部	〒697-1326 浜田市治和町口528	
●推 薦 会 員	海老原 きみ子 (99歳)	24. 5. 14
滝野川支部	〒114-0015 北区中里1-11-11	
●昭 17.9 卒	高 橋 立 夫 (90歳)	24. 5. 21
広島県支部	〒721-0975 福山市西深津町3-8-1	
●昭 17.9 卒	澤 田 郁 夫 (90歳)	24. 5. 18
愛知県支部	〒462-0028 名古屋市千種区東明町3-6-12	
●昭 15 卒	山 下 敏 彦 (95歳)	24. 5. 25
兵庫県支部	〒659-0021 芦屋市春日町1-12	
●昭 9 卒	三 好 春 航 (98歳)	23. 12. 12
愛媛県支部	〒799-3703 宇和島市吉田町東小路甲143	

## ◆投稿規定

- (1) 原稿締切り  
原稿の締切りは、奇数月の10日までとし、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式  
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ(2Lなど)で、集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) 投稿字数
  - ① 「すいどうばし」欄(随想, 詩, 短歌, 時評など)は、1編1,600字程度
  - ② 「支部のうごき」「クラス会だより」は、本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合、3段抜き900字、2段抜き400字、1段抜き200字減らして下さい。
- ③ 「追悼」は、500字程度
- (4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。  
なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (5) 写真等の返却  
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真などの場合は、その旨書き添えて下されば返送いたします。  
写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

## ◆へんしゅうこうき

- ★ 今年度より広報部広報委員会委員長に任命されました。  
これまで封筒の透明化、表紙の変更、カラーページ化を進めてきました。  
さらに写真を多く取り入れ、興味ある記事の掲載に心がけより多くの会員の皆様に読んでいただけるように努力したいと思っています。  
また従来のホームページ委員会と会報誌委員会が合併し広報部広報委員会となりました。投稿先の窓口も一つにしてタイムリーな情報やデータ量の多い原稿、枚数の多い写真等はホームページに掲載し、記録として残したいものや、各年代幅広く伝えたいものは会報誌とその情報の特徴によって会報誌あるいはホームページに発信していく予定です。
- ★ さいかち坂校舎が完成しました。今年4月より新一年生を迎え水道橋移転は順調に進んでいます。竣工式の様子や各フロアの様子はグラビア写真でご覧いただけると思います。また学生さんの生活の様子や新しい設備等も取材をさせていただきましたので次号に掲載をする予定です。
- ★ 第105回国家試験の発表がありました。我が東京歯科大学の合格率は29校の歯科大学のトップとなりました。素晴らしいことです。今回掲載の学長との座談会において大学職員、教職員、学年主任、副主任、学生が一丸となって勝ち得た成果であると聞きました。以前に合格率が低迷したとき、このままではいけないという危機感のもと毎年積み重ねた大学関係者の努力の賜物です。そして今後これを維持していくことの難しさは計り知れないことと思います。ぜひ、頑張っていたいただきたいと思ひます。(臼田 準 記)

### 広報部広報委員会

委員長 臼田 準  
副委員長 福井 雅之  
          山口 雅史  
委員 古澤 成博  
      佐々木 葉子  
      志村 圭子  
      渡邊 宇一  
      島田 篤  
      西村 哲雄  
      宇佐美 貴弘  
      小貫 飛鳥  
      横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成24年6月20日 印刷	発行人 小 池 修
平成24年6月25日 発行	編集人 臼 田 準
東京歯科大学同窓会会報 第386号	東京歯科大学同窓会
同窓会ホームページアドレス	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18
<a href="http://www.tdc-alumni.jp">http://www.tdc-alumni.jp</a>	電話 (03) 5275-1761
	FAX (03) 3264-4859
	印刷所 一世印刷株式会社
	〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22
	電話 (03) 3952-5651 (代)